

平成26年度 行政視察報告書

平成26年10月20～21日

視察先①秋田県大仙市

②秋田県雄勝郡東成瀬村

総務文教委員会

鍛治恵巳子・田中利徳・森川佳英・藤間義明

石橋孝義・藤田 厚・土井正人・山本 誉

総務文教委員会 行政視察報告書

会派政友クラブ 鍛冶恵巳子

1日目日時：10月20日（月）午後3時～

場所：大曲庁舎3階 第一委員会室

「小中学校における学力向上の取り組みについて」

大仙教育委員会教育長 三浦 健一
教育指導課長 千田 寿彦
教育研究所所長 須田 所長

主に3人の方にお話を頂きました。

秋田県大仙市 人口87,194人 世帯数 31,169世帯 面積866.67km²
年間1000人人口が減っている。耕作25パーセント、稲作中心、全国花火創作花火、
音楽のまち、中学マーチング2年連続日本一、というようなところです。

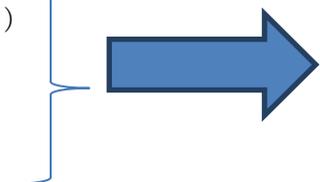
取り組みの主なものとして

1. 小中学校と高校生の交流、国際教養大学との連携
2. ふるさとUターン
奨学金制度、5年間故郷で勤めたら奨学金免除
59名の方が利用して県内に就職が28名
3. 開かれた教室、開かれた学級、いろんな人が授業にかかわる
毎年3分の一教員を入れ替える
教育専門官を配置
4. 全校生徒が60～70の学校が2校
全校ミュージカルなど小規模だから出来る取り組み

未来に向かって前向きな考えをもってもらうため、

(機会と場を与える)

- ・意欲を持たせる
- ・安定した力
- ・+α



総合的学力を身につけることが出来る。

5. 学力の底上げ

・先生・大学生・高校生・退職教員・オーストラリアへの派遣（18名・教育委員会
で候補から人員決定・費用の半額補助15万）←ファームステイ

大仙市の学校教育

基本方針

未来を創り心豊かな人を育むまちづくり

教育目標

生きてはたらく知恵を育み、創造力にあふれる人づくり

キーワード

共創考開



共・共に支え合う力

創・創造的に生き抜く力の育成

考・考え、生かす力の育成

開・開き、信頼される学校

《感想》

・学力向上の沢山の取り組みの中で、学ぶ意欲を高める指導の充実、一人の子供を複数の目で育てるということが大切。

・狙いに応じた指導形態の工夫 5. 6年生は**教科担任制**、苦手といわれる教科である理科など、**専門的**に見て先への見通しをつけることをしている。

・子供と親と教師がつながる一人勉強ノートの学習習慣確立。

・教職員研究集会を春、夏年2回行い、実践発表をして、教職員の皆さんが、全力で取り組んでいる。

・PTA 連合と学校とのつながり、学校、地域、家庭の三位一体の組織環境、子供を育てる環境が出来ているのだと感じました。

・一番は子供にかかわる全ての人の意識だとも感じました。

2日目 10月21日（火）東成瀬小・中学校視察

内容 午前：東成瀬小・学校経営説明・授業参観・校舎見学・児童館見学・教育行政説明・質疑応答

午後：東成瀬中・学校経営説明・授業参観・校舎見学・質疑応答

東成瀬村のお話をいただいた方

教育長 鶴飼 孝 校長 門脇博 教頭 西鳥羽 裕 3名

東成瀬村 人口 約2700人（高齢者35%）

小学校 4校 児童数 114人 教職員15人 ←うち村出身1人

中学校 5校 生徒数 67人 教職員15人

教育行政方針

1. 村だから出来る・やる教育 →ここで教育を受けた自信！
2. 社会総参加の教育 → 地域の人の方200人以上のコーディネーター！！
3. 継承と発展 → 昔から教育に熱心
4. 地域社会づくり、生きがいつくり→ 地域の人92.5%の参加全国3位15分間のコミュニティー作り、コスモス栽培、小中連携教育7年目
5. 創意工夫→ 塾がないなら村で学習塾を始めよう。探究型コーディネート能力を育てる

学力向上について

- ① 当たり前のことが当たり前でできる子供の育成を図る
- ② 個に応じた指導（村費講師活用、加配教員活用、少人数学習）



ノート整理の上手の児童の
ノートを掲示！

- ③ 意欲、可能性の向上（村学習塾、難問題提示、個性の発揮）



難題も楽しくチャレンジ
をさせる取り組み！！

- ④ チャレンジ精神の
- ⑤ グローバル人材の育成（英語合宿・ALT活用）
- ⑥ 指導力向上（小中合同授業研究会・秋田大学阿部昇教授）

⑦ 異年齢集団の活動推進(コスモス植栽・グランドゴルフ)

⑧ ふるさと教育の推進（児童作詞《ふるさとの歌》）

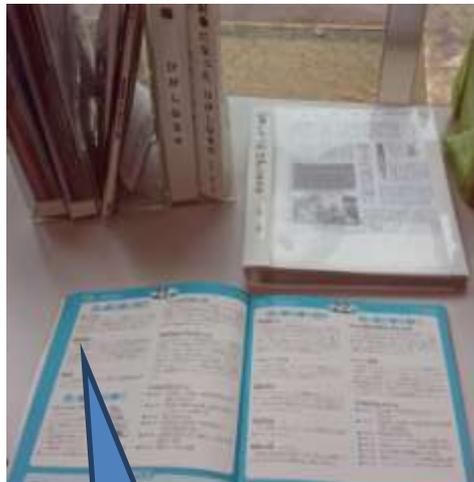


⑨ 読書活動の推進(村費司書活用・朝読書・読み聞かせ)

・学校のいたるところに図書コーナーが設けられていて、各学年、そして季節、社会、全てに関心のあるものがすぐに手にとれるようになっている。

階段にも読書スペースが設けられており、階段で座って本を読んでも読むことが出来る環境が作られていた。成瀬村の広報や、新聞なども写真のように配置されていた。

階段のスペースを使って
作られた読書スペース



村の広報・
地元ニュース



季節の話題
秋・ハロウィン

⑩ 感性を磨く（芸術鑑賞・各種体験活動）

本物の音楽などにふれあう

- ・歌手の歌・京都大学管弦楽団の演奏を聞かせるなど

*授業の参観では、みんないきいきのびのびしていた。この授業の流れのながで、学力向上に最も大事なものは

最後10分のふりかえり

わからないことはわからないといえる、わからないことを繰り返さない。
生徒同士でわからないところを考える、先生には聞けなくても生徒同士でともに学ぶ。
これこそが鳥飼教育長のいう東成瀬村の教育の

『共に学び合う教育』

が、あらわれている。教育長は言われた。

①学校というものは、わからないから来るところであり、子供はわからないもの

②間違ってもいいところ

子供はわからなくて聞くと、そんなのもわからんの？と聞く教師がいる。子供は聞くことが悪いことだと思ったり、自分がダメだと責めたりして、わからないことをわからないといえなくなってしまう。自己肯定感の低い子供が多い中、わかる、出来るんだと子供を育て、勉強への意欲、心を育てている東成瀬村の教育。

個人を大切に、校内いたるところに掲示があったが、笑顔の子供の写真が沢山あった。ノートや掲示物には、先生のみならず、先輩のコメントもあつたり、縦、横、しっかり繋がっていた。背景には7割が3世代同居というのもあると思うが、地域で、みんなで、子供たちへの愛情があふれ、行動が伴い、その結果、学力1位がついてきたものだと思います。

村費をあて海外交流をするファームステイ・学力向上のための並ならぬ支援、本当にすごい、学校が楽しくなる学校環境づくり。先生方の合同研修・研究。時間を作ってされている。切磋琢磨している。

江津でできる、取り入れることのできる内容も沢山ある。まず一つ、わからないことをわからないといえる子供を育てる。それにしっかりと教師が対応する。もちろん江津の先生もしっかりされている。ただ色々な方法があるということ、外に出て研修、視察などをし、もっと貪欲になって良いところは取り入れるように、いただきたいと思いました。

それだけでも江津の教育はもっと良くなると思いました。

平成26年度 総務文教委員会行政視察報告書

委員 田中利徳

【日程】 平成26年10月20日(月)～10月22日(水)

【視察先】 1、秋田県大仙市

「小中学校における学力向上の取り組みにつて」

2、秋田県雄勝郡東成瀬村

「学力日本一の村における学力向上の取り組みについて」

【視察のねらい】

子ども達の大多数は産まれた地域で小学校・中学校の義務教育を受けることになる。この義務教育は生徒個々の人生に大きく影響を与える学力・人間力を育み、学校・家庭・行政・地域社会等で構成される教育環境が大きな役割を果たす。この点に立って江津市の義務教育を振り返ってみる時、江津市においてもこれまで教育環境構成要因である学校・家庭等がそれぞれに真剣な取り組みをなされ一定の成果を挙げている。しかしながら、環境構成要因の連携等については、今緒に就いたところであり改善の余地がある。今こそ、「江津の子どもは、江津で育てる」の気概をもって、より良い対策を早急に講じて、江津の子どもたちが心身共に健やかに育ち、個々の夢の実現を可能にする教育環境を整備することが必要である。教育は待ったなし、目の前の子供たちに目を向け、教育環境をよりよく整え、独自の教育を実践しなければならない。

近年は、文部科学省の縛りは緩み、校長の裁量権は拡大し、所管する地方自治体（教育委員会）独自の取り組みも活発化してきている。言い換えるならば全国学力・学習状況調査に見る学力、心力、体力の状況に各自治体間で大きな差が生じてきているのが現状である。

この現状を鑑み、江津市の教育も平均点到達に満足するのではなく、より向上を目指す子どもたちを大切に育むことであり人材育成こそが、今後江津市が人口減少の荒波の中を生き残るための方策の大きな柱となると確信する。

先に取り上げた全国学力・学習状況調査の成績上位県は、学力向上における教育環境の良いと思われる大都市部ではなく、現在は東北・北陸地方である。中でも秋田県は常にトップを維持している。秋田は江津と同じ日本海に面し地域性も似通っている。その秋田県が日本一、江津市にとっても、ヒントがあるに違いない。「百聞は意見に如かず」実際に秋田県の学校現場に立ち入り日本一の取り組みを検証することとした。

【視察報告】

I、秋田県大仙市

「小中学校における学力向上の取り組みについて」

早朝4時50分に江津市役所前を出発し広島・東京・大曲と新幹線を乗り継ぎ14時31分に花火で有名な大曲駅に到着した。タクシーで直接大仙市役所に移動し、会議室において、大仙市議会議長の橋村誠様の歓迎の挨拶の後、教育指導部長の小笠原晃様から大仙市の学力向上の取り組みについて説明を受けた。休憩の後、教育長・三浦憲一様、教育指導部次長兼教育指導課長・千田寿彦様、教育研究所長・須田百合子様を加え、質疑応答を行った。

1、説明内容

(1) 大仙市の概要

大仙市は2005年に近隣の1市、6町村が合併してできた、人口87,194人、世帯数31,169世帯の市である。

(2) 教育概要

教育概要は、市立小学校21校、市立中学校11校、社会福祉法人立幼稚園8園、県立高等学校5校、県立特別支援学校1校、学校法人立高等学校1校である。

(3) 学力向上の取り組み

平成19年3月策定の「新しい時代の学校教育だいせんビジョン」の児童生徒が、保護者が、学校が、地域社会が、「当たり前のことを当たり前にする」ことができる環境づくりを合言葉に教育を推進している、

①教育分野の基本方針「未来を創り心豊かな人を育むまちづくり」

②教育目標「生きてはたらく知恵を育み、創造力のあふれる人づくり」

具体的には、共・創・考・開の四文字に表している。

・ **共**に支え合う力の育成

・ **創**造的に生き抜く力の育成

・ **考**え生かす力の育成

・ **開**き信頼される学校

③学校教育の基本方針

学校力を高め、家庭・地域社会に信頼され、こどもたちの「生きる力」（人間力）を豊かなものにする学校教育

④学力向上の一環として取り組む事業

- ・国際理解・国際交流活動の推進、
「中学生海外派遣事業」オーストラリアへ20名派遣（ファームステイ）
国際教養大学の留学生との交流活動
- ・市と生徒会活動の連携
心触れあうさわやか大仙事業中(小)学生サミット
- ・豊かな心を育む教育の充実
「大仙っ子読書の日」
- ・学校生活支援事業の推進 ・一人の子どもを複数の目で育てる。
学校支援員等の配置・学校支援員小中55名、日本語支援員中1名
- ・学ぶ意欲を高める指導の充実
「コロンブスの卵わくわくサイエンス事業」中学生を首都圏大学・研究所へ派遣
ねらいに応じた指導携帯の工夫（TT，少人数、教科担任制等）
- ・学力・心力・体力を高める学びの創造
研究指定校の取組を発信
教育専門監の配置 5名（小学校理科・小中学校国語、数学、英語）
- ・大仙市立教育調査研究所 教職員の会議等の場として活用し、学力向上推進委員会などを主管する。月毎に発刊する「教育展望」等を通して情報の周知徹底をはかり、授業改善等に全市を挙げて積極的に取り組んでいる。
- ・学力向上推進委員会（教育研究所が主管）
5教科・約30名 学習状況調査等の分析、及びフォローアップシートの作成し、課題解決策を提案する。
- ・開かれた学校づくりの推進
地域の教育力を生かした体験活動
学校支援地域本部 学習支援・部活動支援・学校行事の支援等
大仙市PTA連合会 ノーメディアデーの提案・実践、学校視察で他校から学ぶ

子どもと親と教師がつながる一人勉強ノート（学習習慣確立）

（４）大仙市教育委員会教育長・三浦憲一氏の説明（教育長職・８年目）

- ・私たちは、子どもたちに「生きる力」をしっかりと身につけさせ、地域や社会の将来を担う人材を育成すると言う使命を負っている。そのためには、学校、教職員、保護者、地域が「当たり前のことを当たり前にする」ことのできる環境づくりを進めること、即ち、学校や教師は学力や成長を保証し、保護者は家庭教育の責任を果たし、地域は子どもの自立を支えるなど、それぞれが一体となって子どもたちの学習の基盤を整えることが大切と考えている。
- ・学力向上に関する視察として、年間約600名の方々が本市を訪れる。視察後「教育委員会と学校と保護者や地域が同じベクトルに向かって取り組んでいる」と感想を述べてくれることが多い。
- ・学校活性化のキーワードは【交流】と「連携」と考え、組織作りにおいて、市教育委員会の意向を明確に伝え、共通理解に立って取り組むために、市単独の小中学校長会、市PTA連合会を組織している。また、幼稚園、小、中学校の教職員が一堂に会して研修する市教職員研究集会を年2回実施し、研究主任や生徒指導主事等の職務別研修会も年1回実施している。

加えて、地域の教育力を学校教育に有効に生かす組織として「学校支援地域本部事業」を実施している。
- ・一人の子どもを複数で育てると言う考えに立ってその土台作りを進めてきた。少人数学習については、県事業の教員加配もあり、小学校1・2年、中学校1年の児童生徒の生活の安定を図ることをはじめとしてティームティーチングや少人数学習の充実に努めている。

また、教育専門官を5名配置しており、専門官が各本務校及び複数の兼務校において、ティームティーチングでその優れた指導力を発揮することで、他の教員の実践的な研修にもなっている。

こうした中、各学校においては、一人ひとりの子どもに応じて基礎・基本の定着を図るため、放課後や長期休業等を活用した補充的な学習、小学校高学年での教科担任制にも積極的に取り組んでいる。学習塾が少なく、通塾度も低いという中で、子どもと家庭と学校がしっかりとつながって「一人勉強ノート」を充実させる伝統も根付いている。
- ・市教育委員会では、市教育研究所が中心となって5教科の教員（約30名程度）による「大仙市学力向上推進委員会」を組織し、全国及び県の学力・学習状況調

査の結果から課題を分析し、各学校が課題の改善状況を確認したり、学習を定着させたりするためのフォローアップシートや指導方法改善を図るための資料を提供し、学校のPDCAサイクルの推進を支援している。各学校は、学習状況調査の結果を授業改善に生かすことにも積極的であり、子どもたちが考えを述べたり書いたり、話し合ったりする授業づくりに意欲的に取り組んでいる。

- ・このほか、市独自で学校生活支援員、複式学級支援員、日本語支援員を配置し、学校生活を送る上で課題のある子どもをサポートして多様な個性が育まれるよう努め、子どもたちも教師も落ち着いて学習に集中できるようにしている。
- ・市教育委員会では、学校現場と一体となって、きめ細やかな生徒指導・支援により、いじめや問題行動、不登校、ネットトラブル等の未然防止に努めるとともに子どもたちの自尊感情や自己有用感を高め、自己指導能力を育成することにも力を入れている。
- ・「豊かな心」と「生きて働く知恵」を育む、学習の土台が有効に機能するためには、子どもたちの心を耕す必要がある。具体的には、体験的学習時間支援事業、芸術鑑賞や中学生海外派遣事業等を展開している。芸術鑑賞は隣接する仙北市にある劇団【わらび座】ですべての小・中学生が本物の舞台芸術を鑑賞できるよう財政措置をしている。さらに、心のプロジェクト「夢の教室」(ユメセン)等では、子どもたちが夢や希望の実現を目指して様々な課題を乗り越えていく力を身につけさせるために、スポーツや芸術などのプロや達人を招聘して講演会や授業を実施している。
- ・中学生海外派遣授業は、20名程度をオーストラリアに派遣し、約1週間のホームステイ(ファームステイ)や学生交流や自然環境学習等を体験させている。
- ・これからは、なかなか1人では生きていけない時代でもある。かかわり合いの中で自分をどう発揮していくかが大切になってくる。本市内の中学校の生徒会が一つの組織として立ち上がったのが「心ふれあうさわやか大仙事業」の「中学生サミット」である。「中学生サミット」は、各校の生徒会の幹部たちが一堂に会し、学校の枠を超えた共通の取組事業に一丸となって向かっていこうとするもので「あいさつ運動」に始まり「環境問題」への具体的な取り組みが展開されている。
- ・就学前教育の充実を図り、発達や学びの連続性を踏まえた質の高い教育・保育の実践、特別支援教育における個別の指導計画を活用した教育的ニーズに応じた授業実践、校内外におけるにおける交流及び共同学習なども積極的に進めるよう啓発に努めておる。また、子どもたちの心を耕すためには、読書や食幾なども含め

た基本的な生活習慣の形成も重視している。

- ・こうした取り組みの上に、各学校では「学校支援地域本部事業」をはじめとする地域の様々な協力を得て、学校の教員以外の多くの地域の方々と子どもたちがふれあう機会を充実させ、豊かな心と生きて働く知恵の育成に励んでいる。

II 秋田県雄勝郡東成瀬村

「学力日本一の村における学力向上の取り組みについて」

学校視察 東成瀬村立東成瀬小学校
東成瀬村立東成瀬中学校

視察2日目、大曲駅発7時18分の奥羽本線に揺られ、7時55分十文字駅に到着する。そこから、東成瀬村のマイクロバスで8時30分に東成瀬村役場に到着し、情熱家・6年連続学力日本一の立役者である鶴飼孝教育長の出迎えを受けた。9時から16時30分までの（午前中小学校、午後中学校）長丁場の視察が始まった。学校現場の授業を見ながら、鶴飼教育長の説明を聞く形式で全学年の授業を見た後、管理職を交えての質疑応答を行った。前日の大仙市では説明を聞くのみであったが、ここでは教員の授業に対する取り組み姿勢と児童生徒の反応をつぶさに見ることができ、充実した視察となった。

この度は、視察前に教育委員会と共同で勉強会を開催し、委員の意識も高く、教育委員会の指導主事と市職員2名が同行したので、相手方に好印象を与えたようであった。

1、視察内容

(1) 東成瀬村の概要

秋田県庁から100Km、秋田県の東南端に位置し、東は奥羽山脈を境に岩手県に南は宮城県に接している。東西に17Km南北に30Kmと細長い地形をなし、総面積203Km²のうち山林原野が93%を占めている。世帯数882戸・人口2,740人、乳幼児から成人まで幅広い教育施策に取り組んでいる。特に学校教育では、ここ6年連続学力日本一になるなど「教育の村」として、県内外や韓国など海外からも視察も多く、年間900名の視察者が訪れる。一般会計30億円の中で3億円を教育に注入している。

(2) 教育概要

保育園 1、小学校 1、中学校 1、高等学校 0

(3) 学校経営の概要

東成瀬村立東成瀬小学校 児童数114人 教職員 20人

- ・児童の実態

素直で明るく、活気のある子供たちである。

基本的な生活行動を当たり前に行える良さを持ち、他を思いやる心、協調性、協力生などを身に付けて、諸活動に他と力を合わせて取り組むことができる子供たちである。学習面においては真面目に取り組む子供が多く、基礎的な力（読み・書き・計算）は身につけている。

人前で自分の考えや意見を話したり、思いや考えを行動に移したりすることがやや苦手である。

・経営の理念（コンセプト）と基本方針

「風うたい 水きらめく成瀬の里で 心ひらいて 夢をはぐくむ 東成瀬小学校」
～ 輝く瞳 はつらつと ～

☆☆ キーワード：「 ひらく（ 開く・拓く ） ☆☆

人間的な関わりを大切にし、豊かな感性や健やかな心身が育つ学校づくり

【心をひらく】 ～ 人と人とのかかわり合いの中で育む「生きる力」

一人ひとりの子どもに「わかる授業」が保障されている学校づくり

【授業をひらく】 ～ 「わかった・できた」を実感させる授業 ～

教育活動全体の改善に結ぶ「連携」をキーワードにした開かれた学校づくり

【学校を拓く】 ～ 地域の「ひと・もの・こと」を大切にされた教育実践 ～

社会の信頼に応え、教育者としての誇りを持ち、研究・研修を重視する学校づくり

【共にひらく】～ 不断の研修意欲と同僚性を大切にされた組織的な研究・研修の推進～

・学力向上の具体策

授業の改善

「授業改善」：授業構想の共通実践

かかわり合って学びをあって学び「自ら学ぶ」子どもたちを育てるための授業改善

授業基本スタイル：「かかわり」キーワードに「探求型授業」の共通実践

【導入部：課題設定】 課題とのかかわり

◎子どもの現状（関心、疑問、気付き）に合った課題づくりと学習ゴールの明確化

○単元全体の系統性を重視した学習課題の設定

○既習事項や生活経験との関わりを持たせた学習課題の設定や発問の工夫

【展開部：学び合い】 仲間とのかかわり ～バレーボール型授業の実践

○ねらいに基づいて豊かにかかわり合って学び合う場の設定（言語活動の充実）

○個の思考を高める、ペア、グループ、一斉など効果的な学習形態の工夫

◎一人ひとりの考えをつなぎ、学び合いに導く教師のコーディネート力の向上

○エラーを顕在化させることにより、子どもの問題意識を向上させ、試行を揺さぶる授業づくり。

○自分の気付きや思いを（間違いを気にせずに）安心して発言できる雰囲気づくり

【終末部】 自分とのかかわり（まとめと振り返り）・・一時間の授業で自己の変容の自覚

※学習過程を振り返らせるための構造的な板書、構造的なノート指導

○学習課題との整合性を重視したまとめ

◎「できること」「できないこと」を自己認識させるまとめと振り返り

○次時の学習や自己課題に基づいた自主学習に連動させる振り返り

○学びを確かなものにしたたり、広げたりするための家庭学習のすすめ

「読解力・表現力向上」 自分の思いや考えを表現し、伝え合う意欲を伸ばす言語活動の充実

【言葉の力を高める技術の向上（読解・表現とスキルアップ）】

◎相手意識をもって伝え合う場の設定と個に応じた具体的な支援

○読む、話すスキルの活用（「伝え合いのスキル」「読みの技術」の提示と活用）

○日常的な詩の音読・暗唱への取組（今月の詩の取組など）

○読書活動の充実（朝の読書や読み聞かせの実施、図書館司書との連携：図書コーナーの配置）

【言葉の力を活用し、表現意欲を高める場の設定・工夫】

○全校作文「今月の作文」：行事の趣旨を意識した作文」

○各学年、委員会による言語活動を生かした集会の実施

◎集会や活動のねらいを意識した、進行や感想発表会のさせ方（伝え合う）指導

【個に応じた指導の充実】

○各種学力調査（NRT、全国学力調査、県学習状況調査）分析による検証・改善

○TT・少人数学習指導（算数・国語・理科・体育・図工）

○「揃える指導」と「広げる指導」（発展学習）を意図した各教科等での授業実践

○児童に対する学習アンケートの実施と結果を基にした指導（年2回月・12月）

【基礎基本の定着】・・・朝・業間・昼の時間を活用

○モーニングタイム・・・（朝読書 毎朝10分）「読む力」を付けるための読書の時間

○パワーアップタイム・・・基礎体力づくり（2校時後 10分マラソン・縄跳びストレッチ等）

○チャレンジタイム・・・「漢字」と「計算」のちからの定着と「広がり」

【職員研修】

- 一人一回の研究授業と学期に一回の「授業オープン週間」の実施
- 授業構想段階からの組織的な関わりと全員参加型の指導案検討会及び模擬授業の実施
- 「明日からの授業改善」を意識した、視点を絞った研究協議会の実施
- 小中連携授業の実践を通しての授業改善に向けた共同研究

特色ある教育活動

- ☆学力の確実な定着
- ☆多様な価値観や生き方に触れさせ、豊かな感性や人間性、社会性を培う
- ☆子どもの主体性を生かした活動の推進

ふれあい活動・・・全校縦割り（12グループ）の活動

縦割り清掃・ふれあい集会・花植え活動

仙人テスト・・・学期1回、漢字・計算などの基礎学力の向上を目指して実施
合格するまで取り組ませ、合格証・満点賞を授与

ノートコンクール・・・問題解決の「過程」を重視したノート指導〈振り返り・確認〉

学習強調週間・・・放課後の学習会（1C3Tで指導）

小中連携事業

【知育】 小中連携による授業等の改善

- ・年2回の授業研究
- ・外国語活動と音楽科での中学校教諭とのTT

【徳育】 中学生とのキバナコスモスの植栽活動

- ・「やさしい心」「協力する心」「奉仕する心」の育成
- ・学習発表会での種子の配布

【体育】 中学生及び村協会関係者とのグランドゴルフとパークゴルフでの交流
マイランチデーの実施

食育の推進・・・村の栄養士と連携した食育の推進

食に対する興味・関心を高める環境づくり

幼小連携授業・・・児童と園児の交流（遊びや発表）

図書館教育の充実・・・読書環境の整備と読み聞かせボランティアの支援

図書館司書

地域の年中行事の体験・・・ふるさとを愛し、豊かな心を育てる体験活動
・地域人材の活用（有識者 むかしこの会）
学校支援地域本

グローバル～夢～ミーティング

・秋田大学の留学生（10ヶ国）との1泊2日の交流活動（小6年生・
中3年生

※お互いに「夢」「将来」を語り合う。ふるさとの良さを紹介する。

・英語コミュニケーション能力 ・国際理解 ・キャリア教育

東成瀬村立東成瀬中学校

生徒数 67人 教職員数 14人

- ・ **地域の実態** 保護者世帯数 61 約7割が三世代同居
P T Aへの参加率が高い
学校の諸活動に対してとても協力的
- ・ **生徒の実態** 真面目な学習態度、集中力の持続がある。
優しさと協調性、素直さがある。
積極的にかかわろうとする力、自分の考えや思いを自分のことば
で伝える力がやや劣る。
- ・ **経営の重点**
「問いつづける、学びつづける、変わりつづける」
○東成瀬だからできる教育を ○教師は生徒の姿で勝負 ○生徒と共に
○対話のある授業を ○協働生と自律性
- ・ **学力向上の具体策**
小学校との連携を密にし、ほぼ小学校の流れを継承し、実践を通して成果をあげて
いる。
- ・ **特色ある教育活動**
○TBS活動・・・全校生徒による吹奏楽活動「東中スペシャルブラス」
生徒同士が教え合い、音と心をつなぎ合いながら一つの曲を演奏
○わが村体験学習・・・村内事業所13ヶ所で勤労体験学習
○HMS音楽祭・・・東成瀬中（H）皆瀬中（M）須川中（S）の3校合同での
合唱コンクール
○ポスターセッション・・・東中P1/S1グランプリ決定戦

「総合の時間」のまとめをポスターにし、発表会を実施

P 1（ポスターN o 1） S 1（セッションN o 1）を決定

東中祭で保護者の方々も投票する。

- 仙人思考力コンテスト・・・自分で考え。競い合い、可能性を最大限に伸ばす知的好奇心、挑戦意欲を高める問題を出題する。

ポイント制にし、学期ごとの表彰で意欲を高める。

全教科からの出題を目標に、全職員で取り組む。

- 学習オリエンテーション・学習集会・全校教科面談

学習オリエンテーション（4月）

中学校の学習について 「東中スタイル」の確認

2・3年生から1年生へ

学習集会（5月）

家庭学習のやり方（定期テストに向けた取組等）

授業や家庭学習のノート作り

学習委員会が中心となって

全校教科面談

全校生徒が対象 5教科の教科担任とマンツーマンの教育相談

年1回実施（2学期）

学力向上のための「共通実践事項の具体策」について（中学校）

【授業改善】

- 小中連携で取り組む「対話」をキーワードにメリハリのある授業づくり

- 学習への意欲が高まり、思考力が活性化する学習課題の工夫

- 発問の工夫と精選による思考の活性化

- 「自分で考える力」を付ける時間の確保

- グループ等による学び合いの重視（各教科等による学び合いの姿）

※課題意識をもって聞く生徒の姿、根拠を明らかにし話す生徒の姿

- 板書の工夫（生徒と作る板書、思考を促す板書）

- 教科の特性を生かした「まとめ」「振り返り」、生徒のことばによる「まとめ」

- 授業改善のための生徒による授業評価の実施（7月・12月）

- 教師の力を高める授業研究

（オープン授業「やってらんし」、小・中連携授業研究等）

【個に応じた指導】

- 「平成25年度個に応じた指導推進委員会報告書」による課題への取組

- T Tの充実（数学・英語・体育）
- 教科担当による個人面談の実施と個々の課題克服
- 学習強調週間の設定や学習講座の開設
- 昼休みや放課後の学習支援の実施

【学級集団づくり】

- 全校学習オリエンテーション等による「学習の約束」の徹底
- 授業における生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）の重視
- 道徳教育の充実（「教え学ぶ」から「気付かせる一気付く」授業へ
- ミニ集会やミニ討論会等を通じてのコミュニケーション能力と表現力の育成
- 明確な学級目標の設定
- T S B活動、小中グランドゴルフ・パークゴルフ、キバナコスモス植栽活動等による「思いやり心」の育成
- 体育祭・音楽祭・学校際での学級の集団力の育成

【学習意欲の向上】

- 生徒が「やってみたい」「なぜだろう」と思える学習課題・問題の設定
- 学び合いの場における意見の取り上げ方の工夫（エラーの顕在化とエラーを克服させるための教師の手立ての工夫・・・教師のコーディネート力の向上
- 良さを認め、仕掛けて褒める評価の工夫（ノート・作品等へのコメント）
- 英単語・漢字・計算力等の基礎テスト（仙人テスト）の実施で分かる喜びと表彰による学習意欲の向上
- 知的好奇心や学習意欲を高める「仙人思考力コンテスト」の実施

【家庭との連携】

- 欠席・遅刻・早退時の電話等による連絡
- 欠席が2日以上続いた場合の家庭訪問
- 生徒の成長や良さを伝える学校報、学年通信の工夫及び校内における生徒の活躍コーナーの設置
- 「まず、相手（保護者）の話を共感的に聞く」という姿勢の職員による共通理解
- 丁寧な電話対応
- 二者面談・三者面談による連携
- 「保護者アンケート」の実施と内部評価の実施及び学校評議委員・学校関係者評価委員による「学校関係者評価委員会」の実施、評価結果の開示

【家庭学習の充実】

- 先輩たちから家庭学習のアドバイスを聞く「学習集会」の実施
- 学習委員会による「学習だより」の発行
- 家庭学習に取り組んだ成果を試す小テストの実施と評価
- 家庭学習や宿題のチェックや励ましのコメント

【チャレンジ精神を育むために】

- 漢検・数検・英検への挑戦
- 「わか杉チャレンジフェスティバル」、英語暗唱・弁論大会への挑戦
- 学校行事を生かして
 - 1年生・・・栗駒登山
 - 2年生・・・職業体験学習前の校内就職面接
 - 3年生・・・生き方講座で講師から学ぶ
 - 全校生・・・TSB音楽祭への取組
- 挑戦意欲を高める「仙人思考力コンテスト」の工夫
- 部活動での挑戦、特設部活動（陸上競技大会・駅伝大会）への積極的な参加
- キャリア教育の充実

【読書活動の推進】

- 「朝読書」時間の充実（朝の活動：月・木・金 8：15～8：30）
- 読みかたりグループ「つくしんぼう」による定期的（月1回）の「読み聞かせ」活動の展開
- 図書支援員との連携による生徒が読みたくなるような読書環境の設定
- 生徒や教師による「お薦めの本」の紹介
- 心に残る言葉や思いを残す読書カードの工夫

教育長 鶴飼孝氏との質疑応答

- ・これまでも、幾度となく合併を拒み続けているように、村に誇りを持ち、村を守ろうとする気概を感じることができる。教育においても、東成瀬村の子どもたちは東成瀬村で育てるといふ村民全体での協力体制ができている。
- ・成瀬村の校長教頭は忙しい、学校全般の雑務を一手に引き受け精力的に良く働いてもらっている。このことが若い先生方を授業に集中させることにつながる。
- ・教育長は、毎日小学校と中学校に足を運び児童生徒や教職員と触れ合うよう努めている。毎日校長会をしているようなものだ。

- ・村出身の教員は一人で、毎年人事異動がある。私が県教委にいた経験があるので、教育長が力のある教員を引っ張ってくるという噂もあるが、県は基準に従い教員を張り付けてくる。そこで教員の指導力を低下させないように、人事異動で転勤されて来られた先生については、教育長と管理職が中心となって、成瀬方式を理解していただき、ほぼ2ヶ月で一人立ちしていただくことにしている。
- ・学校では、メモ用紙を持参し、児童生徒や教員の良いところ成長したところをメモし、そっと伝えることにしている。
- ・村の一般会計は約30億円であるが、教育には3億円を掛けている。給食費は無料である。
- ・児童生徒の生活の基盤である家庭は、7割以上の家庭が3世代同居であり、子どもたちが落ち着いて学習に取り組むための心の安定に大きな役割を果たしている。
- ・学力向上は、一朝一夕にはいかない、長期にわたる取組が必要となる。その間教員には異動があるので、行政（教育委員会）側がしっかりしたビジョンをもち学校や地域と連携を密にして真剣に取り組まなければ、良い教育はできない。

【視察を終えて】

- ・6月議会の一般質問で、「江津市も日本一の教育をめざそう」という話をした中で秋田県東成瀬村の鶴飼孝教育長の例を挙げたところ、議会終了後の総務文教委員会で委員の中から東成瀬村に行こうと言う意見が出た。

その後、議会事務局の横田氏に交渉をお願いした。何分にも、年間900名を超える視察者があると聞いていたので、実現するかどうか心配をした。横田氏の鶴飼教育長との直接のやり取りがあり、この度の教育視察が実現した。出発前には教育委員会と合同で勉強会を実施し視点を明確にして視察に臨んだ。

この度は、市当局の計らいで、教育委員会の指導主事と職員の2名が同行することとなった。このことは単なる市議会議員の視察ではなく教育委員会が同行したことで相手方に対して、江津市の本気度を示すことができ、好印象を与えたことは確かである。

【視察を通して江津市の義務教育を考える】

- 1、大仙市は教育研究所を起点とし、東成瀬村は鶴飼教育長が毎日学校を訪問するなど行政と学校現場が一体となりリードし、さらに地域が加わって、地域の宝である子どもたちのために教育を推進していた。
かつての学校は外部からの影響を受けながら保守的と言われた時期もあっ

たが、現在は、開かれた学校の下、行政や地域の力を歓迎する気風がある。

私は、江津市でも教育行政の実務的な長である教育長・教育課長が頻繁に学校現場を訪れ、現場の声に耳を傾け強力にバックアップして頂きたいと思う。

- 2、この度訪問した大仙市、東成瀬村、共に教育委員会がしっかりしたビジョンの下で、学校現場と家庭そして地域と連携を取り合って、長期の視野に立って教育を推進していた。

江津市の学校は公立学校であり、人事異動があり特に石見部ではその流れが速く学校経営の持続性が保たれにくいところがある。学校現場を信頼しないわけではないが、学校現場に全てを委ね学校にお任せでは、子どもたちは義務教育9年間の一貫した教育を受けることが難しいと思う。

例えば、他地域から転勤して来られた教員があった場合、ある程度の江津市の教育ビジョン、もっと言うなら江津方式が新任教員に対してお願いできるようになって頂きたい。東成瀬村では新任教師に対して、教育長自ら成瀬方式を伝授されている。

- 3、視察後、総務文教委員会では、秋田の教育に伍して江津市の教育の発展を願い議会として支援するため、地元江津市の学校視察を教育委員会に申し入れ、西部地区の小中学校の視察が実現した。どちらの学校においても、校長先生をはじめ教職員の方々に気持ちよく迎えて頂いた。それぞれの学校において、われわれの想像していた児童生徒像・保護者像から様変わりした児童生徒・保護者に対して総力を挙げて指導に当たっておられ頭の下がる思いであった。その中で江津市の展開する支援員や図書館司書は大きく力を発揮している。他の市町村に先駆けて導入された大型テレビは英語教育に大いに役立っていた。

ある学校では、生徒数減の影響で支援員の削減が来るのではと心配されていたが、生徒数が減少したからといって指導が楽になることはないので、考慮をお願いしたい。

授業については、県の方針として、秋田県とほぼ似通った授業が展開されていたが、子どもたちの集中力においては秋田には及ばない感を受けた。

言い換えるなら、教員の指導力の差であると言える。仏作って魂入れずのことばの様に、まだまだ先進地秋田に学ぶところは大きいと思う。この度動向をお願いしたが予算不足で同行できなかった教育長・学校教育課長、新進気鋭の若い先生方を秋田等の先進地に派遣し学ぶための予算措置をして頂きたい。東成瀬村では、一般会計予算30億円の10分の1に当たる3億円を教育費に投資している。

【 参考資料 】

鶴飼 孝（つるかい・たかし） 1944年10月9日生まれ。出生地は秋田県由利本荘市（旧由利町）。秋田大学教育学部英語科卒業後、講師を経て72年、東成瀬村立東成瀬中学校教諭。湯沢市立湯沢南中学校教諭、秋田県教育庁義務教育課課長などを経て2005年湯沢市立湯沢南中学校校長退職。06年から東成瀬村教育長。趣味は野菜づくり。

— 「学力日本一の村」として国内外からの見学や視察、取材が多いと聞きます。

自分たちの口からは一度も「トップクラスだ」とは言ったことはないのですが、いつのまにか知られるところとなり、多くの方々が村に来ます。昨年度ですと約900人。教員、大学教授、地域づくりの関係者、報道関係者など、外国からもたくさん来ました。

私自身は県町村教育長会の会長時代、順位の公表には学校の序列化につながる恐れがあるとして一貫して反対の立場を主張してきました。

学力テストの結果というのは、あくまでも教育方法の改善に役立てるためのものです。しかし、内外から注目されている実態もあり、テスト結果については点数ではなく、県平均から比べるとどれくらい、国平均に比べてどれくらいというような形で、私が村議会で報告しています。また視察に来た方々にも村の教育方針や指導方法を説明しています。

— どのようなことですか。

まず、村には小、中ともに1校ずつしか学校がありません。児童、生徒数は小学校114人、中学校が67人（2014年度）。良いか悪いか別として、これが現実です。それを生かした「小中連携教育」を村の方針として掲げています。ここはへき地ですが、それ故に教育の機会が奪われてはいけないと、村全体が長い間教育に力を入れてきた歴史もあります。



教職員は小中合わせて30人ほどしかいませんので、学習以

外のスポーツ活動などでは教職員がカバーできないところは地域の人を借ります。地域の力を借りるといことは保護者以外の方にも学校の方針を説明して、協力してもらうことが必須です。

村では授業参観に保護者のほか、地域の人も顔を出してもらっています。参加率は120%ですよ。3世代同居が多いので祖父母のための授業参観も行います。村内のほかの行事も学校側から積極的に仕掛けて、学校をオープンにし、楽しんでもらえるようにしています。教職員は営業マンとして学校を説明する役割が必要です。みんなが子どものことをどこの家のだれ、と知っていることは大事です。

▽村のみんなで子どもを育てる

村が一体となって子どもを育てている、子どもにとっては村全体に愛されているという雰囲気大切なのです。そうして初めて小規模校の特性を生かした「小中連携教育」が可能になります。子どもは生まれた時からこの村の子どもです。指導内容、指導方法、9年間を通じてすべて一貫性を持った教育を行うようにしています。

「小中一貫」とか「中高一貫」とかの教育は「ハコモノ」をつかってその中に子どもを入れるだけではだめです。頑張る子どもたちがいて、熱意のある教職員がいて、学校を理解してくれる保護者、行事に協力してくれる地域の人たち、そして条件整備をする行政の5つの要素がうまくかみ合っこそ成り立ちます。教育委員会はその要素をうまく回転させるためにあります。この村のように少人数なら目が行き届く、小学校も中学校も1校ずつだから中1ギャップもないのだというわけではありません。

ー トップクラスの成績を維持する秘けつは何ですか。

実は「これ」という「決め球」はありません。強いて言えば「当たり前のことを当たり前

にできる子どもを育てる」ということでしょうか。つまり、授業に集中して、考えてくださいと言えば考え、発表してくださいと言えば、発表しようという雰囲気がある。よく、視察に来る人が驚きます、みんな集中していて、都会では考えられない授業風景だと。でも、これが当たり前の姿です。これができれば学力はおのずと身に着きます。

とはいっても最小限の条件があって、それが先ほど述べた5つの要素ですね。たとえば、うちの村ではモニターペアレンツのような事態はありません。ないけれど、不満や要望のない保護者がいないわけではないのです。教職員はそこを理解しなければいけません。

自分の孫が学校に通っていなくても、朝のボランティアに参加して見守りをしてくれるお年寄りもいます。教職員は地域の協力を感謝し、説明責任を果たして、一緒に子どもを育てているという誠実な姿をいつも見せ続けることが大切です。

一教職員は異動がありますが、教育の質を維持する方法は。

この村で言うと、村出身の先生は一人だけです。あとは私も含めて村外の人間です。ですので、毎年4月2日午後4時から、私が先生方に村の教育方針について理解してもらいをお願いします。小中連携教育がうちの目玉です、そのためにこのように取り組んでくださいと。

▽教員の質を高める工夫と村独自のカリキュラム

そのひとつが教育力を総合的に使う工夫です。例えば、英語の授業の研究会を行おうとしても、今は教員の数が少なく、英語の先生は村で1人です。隣の町まで行かないと別の英語の先生はいません。いっぺんに10人集まるのは無理です。そこで始めたのが村内の研究会です。小学校、中学校、教科の枠を超えて教員が全部、英語の授業の研究会に参加します。教員の資格は皆通じるものを持っているわけですから。

こういうやり方だと先生方が居眠りをする暇はありません。皆で意見や知恵を出し合って授業の進め方を工夫します。つまり先生方の質を高め合うわけです。また複数の教員が子どもたちを指導するチームティーチングには校長、教頭ら管理職も入ります。「俺は管理職だから」という先生はいりません。たしかに教職員は大変かもしれませんが、それがうちの村のやり方です。

村独自のカリキュラムもあります。「知徳体」のバランスを考えたもので「なるセタイム」と名付けました。小学校であれば、朝10分間の朝読書や自習、3校時と4校時の間は、体育の跳び箱やマット運動、5校時が始まる前は漢字や算数のドリルですね。一日がこういう

リズムですから、最初に来た先生は音を上げることもある。でも、やってもらうんです。

中学校も面白い取り組みをしていますよ。一定時間で新聞のコラムを書き写す「視写」。これは文章をまとまりで読む力が付きます。社説を読んで先生が質問する「速読」の時間もあります。先生自身が時事問題を勉強しないと質問できないのでそういう意味では大変です。ただ、うちの村では生徒指導上の問題がゼロだから、先生の心理的な負担は少ないはずですよ。

このほか、学力テストの結果を受けて「もっと学ばせたい」「もっと勉強したい」というアンケート結果があったので、村で塾を開設しました。年に20回ですが、保護者負担はテキスト代の1300円です。私は学校教育だけで十分だと思ったのですが、希望がある以上はそれに応えなければならないと。

子どもたちと地域の方々が一緒になって国道沿いに「キバナコスモス」を植えている取り組みもしています。一斉に花が咲く頃は周りも明るくなります。自分たちでも地域や観光客の人たちに何か喜んでもらえることができるのではないかと心教育にも重点を置いています。

—多くの見学などを受け入れて感じることはありますか。

韓国の方からはトップの成績を出したんだから、先生たちに特別ボーナスはないのか？という質問もありました。もちろん、ないですよと答えましたよ。

学力テストは国は都道府県別に平均正答率を公表していますが、市町村教委の単位はそれぞれが説明できるというスタンスです。だから情報をお互い交換し合っってここに来る方がいるのですね。

おとしは沖縄県のある村の地域コミュニティの皆さんが来ました。そうしたら、その人たちは「沖縄県は成績が悪いけど、自分たちの村はその中でも悪いのです」と言うのです。なんて正直なんだろうと。だから、私もこの村の取り組みを一生懸命説明しました。ことしこの間来ました。そうしたら質問内容が全く変化していました。「自分たちは2年間でこういうところを改善しましたが、東成瀬村ではどういう改善がありましたか？」と。

つまりその村は自分たちが取り組んだ結果成績が上がって自信を持ったのだと思います。こういう交流はこれからも大切にしていきたいと思っています。

▽どこに行っても恥ずかしくない力を付けてやりたい

—こういった教育の実績を村づくりにどう反映させますか。

やっぱりその質問ですね。ほかの自治体の議員さんの視察などでは必ずこの質問を受けるんですよ。

この村の子どもたちは中学、高校を出ても40%から45%しか村に残りません。働く場所がないとか事情があるから。



これは決して教育だから、と逃げるわけではないけれど、「知徳体」の力を付けて、将来どんな方向にでも進んでいける素地、底力をきちんとつけるのが義務教育段階での使命だと思っています。

結果として村に残ればそれはそれだし、あるいは村に残るから、ここまででいいということもない。教育に上限はないのだから、どこまででも伸ばしてやりたい。もちろん、郷土を愛して良いところを見つけさせるというふるさと教育を行っていますが、基本はどこに出て行っても恥ずかしくない力を付けるのが我々の責務です。

村づくり、村の活性化というのは人が残るのがすべてか？と私は思います。国連の職員になってもいいじゃないか、政治家になって良い法律をつくるのもいいじゃないか、村に残って、もし板金屋さんになったら日本一の知識と技術を持てと。私たちは子どもの将来の可能性をつくってやる、それも村づくりのひとつだと思っています。

—教育への情熱はどこからくるのでしょうか。

私は大学卒業後、講師を2年務めている時に、ここ、東成瀬中学校で本採用になりました。あの頃は右肩上がりの、何でも大きければいいという時代で、小さな学校はそれだけで軽んじられました。物理的な差もいろいろありました。距離のために高校進学をあきらめたりする生徒もたくさんいました。だけど、それは子どものせいじゃない。子どもはここに生まれただけなんだ、それならその物理的な差を取り除いてやるのが教育だろうと。その悔しさが原点です。

それは地域の皆さん、保護者の皆さんがよく分かっています。ですから教育への協力も惜し
まずやってもらえるのです。私自身も今でもその原点は変わっていません。子どもたちには
この村に生まれ、この村で教育を受けたことに自信と誇りを持って歩いてほしいと思
っています。（聞き手 47NEWS 黒川美加）

平成26年11月15日

江津市議会議長 藤田 厚 様

江津市議会議員： 森川 よしひで

総務文教委員会行政視察報告書

☆テーマ

「小・中学校における学力向上の取り組みについて」

☆視察・研修 理由

今回の視察・研修の注目点は、学力日本一のまちとして実践・取り組みを行い、本当の学力とは何かを実感できる地域として国内外から視察が来ている秋田県の内容について学ぶと共に、江津市の行政と教育委員会が取り組むべき課題や方向性、内容が本当に将来のこの地域を支える人材育成として、取り組みとしても、予算の在り方としても、保護者の願いとしても、江津市行政の責任の取り方としても、ふさわしい在り方となっているのかどうかを学ぶことにあります。秋田県の教育は「手間ひまかけて人の育成」をしています。

☆研修内容

①秋田県大仙市では教育予算が40億円

1. 大仙市では、小学校21校、中学校11校、幼稚園8園、県立高等学校5校、特別支援学校1校、私立高校1校で、市立小学校の児童数は3,786人、市立中学校の生徒数は2,029人となっています。また、教職員数は約570人で、市の予算での教育費は40億6700万円余りで全体の8.6%に上ります。(江津市では約11億円で6.2%)

平成19年3月に策定した「だいせんビジョン」に基づき、保護者・地域住民との連携体制の整備と幼保・小中高・大学との交流・連携で「当たり前のことを当たり前にする」ことができる環境づくりを行っています。

2. 地域と共に特色のある教育活動を推進している大仙市では、教育委員会を中心に生きて働く知恵を育み、創造力にあふれる人づくりを目標に4つの分野で実践を行っています。

共に支え合う力の育成については、小中学校芸術鑑賞事業としてわらび座鑑賞、国際教養大学との交流などを行っています。

創造的に生きぬく力の育成では、小中の心触れ合う学生サミットの実施、学校生活支援員等の配置で全体が落ち着いた環境で授業に取り組めるようにしています。

考え、生かす力の育成については、学力・心力・体力を高めるとして教育専門監の配置、心のプロジェクトで陸上の市橋有里選手の講義など幅広く取り組んでいます。

開き、信頼される学校については、地域の教育力を生かした体験活動として各機関、団体、企業との協力によって複数の目で子育てを行っています。

☆今後に活かす課題と感想、学んだこと

参考になった点は、一学級に複数の教員の配置など複数の目で子どもを育てること。演劇や芸術の分野で本物を体験すること。幼・保・小・中・高・大などの連携と共同の力で子育てを行うこと。目標として、市の年間予算の一割を教育予算として支出し、子育てを行うことが掲げられますが、江津市でも税金の使い方を変えれば実現が可能なこととして大変に参考になりました。また、音楽も盛んな地域でもあり、中学校マーチングバンドでは2年連続日本一に輝いているほか、囲碁などを教育に取り入れていることが印象に残りました。

学力向上については、大学生や高校生などの力も借りて、いろいろな面で伸びる子どもをどんどん伸ばす取り組みやプロに学ぼうと子供の要望から出発した取り組みが、総合的な学力の源であると感じました。このことによって元気な子供になった。子供たちの目の色が変わったと評価していたのが非常に印象に残りました。

今後の議会活動の参考し、微力でも子供たちの役に立ちたいと思っています。

☆研修内容

②秋田県雄勝郡東成瀬村では3世代同居で教育

1. 秋田県東成瀬村は、人口約2,740人、世帯数は882戸の小さな山村です。
そのうち、児童・生徒数は183人、教職員数は30人で、3世代同居家族が多く、「村づくりは人づくりから」として教育には特に力を入れて多くの成果を上げています。
特に教育環境としては、学校給食費無料化・修学旅行半額補助・通学バス無料・小1年生1人に3万円の入学祝い金・高校生バス、列車通学8割補助など手厚い財政支援を行い子供の成長を援助しています。ただ、村の教育長はそれだけでなく、3世代同居の環境を活かし、おじいちゃん・おばちゃんなどの集団での成長を重視しているとも説明しました。
2. 実際に授業参観に参加して感じることは、各個人の先生の独自性を第一に考えていることが、子どもたちとの会話の中に感じられました。
3. 人間的な関わりを大切にし、豊かな感性や健やかな心身が育つ学校づくりでは、
当たり前のことが当たり前でできる子供の育成を図るとして多様な価値観に触れる為に、異年齢集団の活動にランドゴルフなどを取り入れています。
1人ひとりの子供に「わかる授業」が保障されている学校づくりでは、個々の応じた指導の充実として村費での講師、加配教員の活用や少人数学習の実施で学習意欲の向上などを図っています。
「連携」をキーワードにした開かれた学校づくりでは、指導力向上として、小中合同授業研究会、小中共同指導事項の実践や秋田大学の協力など行っています。
研究・研修を重視する学校づくりでは、感性を磨くとして芸術鑑賞や各種の体験活動や村費の司書を活用、朝読書などを推進しています。

☆今後に活かす課題と感想、学んだこと

大変参考になった点は、多様なプログラムなど学習の楽しさを教えることを第一に考えていることです。また、学習条件の整備も重要で村を上げて財政も人も創り、教育にかける情熱が伝わってきました。「小中一環」ではなく「小中連携」による教育指導の重要性も学びました。多面的な体験学習も、子供たちの「夢」「将来」に繋がる役割をしていると実感しました。

特に授業改善の中で、ノートコントロールとして取り組んでいる、問題解決の「過程」を重視したノート指導（振り返り・確認）については納得をさせられました。

最後に、村の歴史は人づくりの歴史と紹介されたことです。基本的な考えは、社会をとらえる人材づくりと人をつけて生活力を向上させることを貫いていることです。

未来にわたる村づくりを実践している内容は江津市も学ぶべきものと強く感じました。

日 時 2014. 10. 20（月）～22日（水）

場 所 ①秋田県大仙市 ②秋田県雄勝郡東成瀬村

対応者 ①大仙市議会議長 橋村 誠 教育長 三浦憲一 教育指導員 小笠原晃
教育指導課長 千田 寿彦 教育研究所長 須田百合子

②東成瀬村議会議長 富田義行 教育長 鶴飼 孝 校長 門脇 博
校長 山崎守 教頭 西鳥羽 裕

平成26年10月30日

総務文教委員会行政視察報告

委員長 藤間 義明

下記日程にて行政視察を行いましたので報告いたします。

☆日程 平成26年10月20日～10月22日

☆目的 学力向上の取り組みについて・・・秋田県の小中学校は毎年全国学力テストの結果はトップです。そうした状況を現地に赴き視察する。

☆視察先 ①秋田県大仙市 大仙市役所

②秋田県東成瀬村成瀬小中学校

① 秋田県大仙市 大仙市役所

動機・・・大仙市は人口8万7千人です。そして小中学校32校の学力は秋田県の平均点より常に上位です。そして学力だけではなく、様々な生きる力を育てています。そうした現状を視察し江津市の取り組みの参考にする為。

内容・・・大仙市役所において、大仙市議会副議長の挨拶の後、三浦教育長以下教育担当部長による教育の取り組みをプロジェクトによるプレゼンテーションを視聴しました。

大仙市小中学校は、音楽活動が盛んでマーチングバンドは4年連続全国1位です。スポーツも盛んで文武両道です。そして近年は学力も安定した学力が保たれている。成績の悪い生徒の底上げは高校生、中学生が応援し、伸びる子は伸ばそうという姿勢で臨んでいる。オーストラリアへ毎年20名留学させ、理科好きは首都へ、そして様々なプロの選手を呼んでいる。そして様々な要望を推し進め、総合的学力向上を上げている。その結果元気な子供が増えてきた。

以上の説明を聞き、その後質問しました。

感想・・・大仙市の行政視察時間は1時間30分という短い時間にも関わらず、三浦教育長さんが対応していただき、委員からは積極的に次々と質問（高校、大学との連携。教員研修。小中学校連携。心のプロジェクト。モンスターペアレントの問題。教育委員会のスタンス。国際交流。地域支援コーディネーターについて等）があり中身の濃い時間でした。特に教育委員会内の教育研究所の役割が、教育委員会と各学校との間を取り持つ役割を果たしていましたが、教育委員会があらゆる資料を保護者に渡し

(年3回)信頼関係を構築している等は本市にとって大変参考になりました。

② 秋田県東成瀬村東成瀬小中学校

動機・・今回の行政視察を決める際、委員会において様々な検討を重ねた結果、学力全国1の秋田県で県内1の東成瀬村(人口2700人)東成瀬小中学校が案として浮かび、視察する事にしました。

内容・・午前中は教育行政の説明と小学校の授業参観・校舎見学を行い、午後は中学校の授業参観・校舎見学及び質疑応答を行いました。

感想・・朝8時半から16時半まで一日中東成瀬小中学校にいました。小さな村ですので小学校1年から中学校3年迄皆1クラスです。そして生徒は純粋な田舎の子供のようですが、どのクラスも授業に集中していました。授業の最初は、今日の課題をしっかりと理解する。最後はまとめを行う。そしてその授業をふりかえる。また引っ込み思案の子供が多いことから、指で表現するよう、合図を教えていました。そして3~4人のグループ学習を授業中に何度も行って行っていました。そして発表したことは周りの壁に貼り付けていました。壁は様々な連絡事項や、授業の成果で埋め尽くされていました。そして教育関係予算は村の予算の10%と本市と比べて3倍の多さです。そして、鶴飼教育長の熱意も大きな力と思いました。実際に1日中居たからこそ、中身が見えてきました。とりたてて難しい事を行っているわけではないけれど実際行うとなると大変な事もわかりました。



東成瀬小学校の授業風景・・時間内に何度も行われるグループ学習

壁は隙間がないくらい様々な成果が貼り付けてあります

③ まとめ

今回の行政視察は、秋田県の教育行政も学びました。秋田県の特徴は、探究型の授業の推進です。これは同じく全国トップレベルの福井県の教え込み授業とは違い、①めあて、学習課題の提示、②発表の場の設定、③学び合いの場の設定、④振り返りの活動の充実を図っています。島根県そして江津市は数学が弱いですが、秋田県は強い秘密がわかりました。今後はこうした視察を本市においていかに生かすか、出来ることから行っていかなければならないと思います。今委員会で学校の授業参観を行いたいと思っていますが、そうしたきっかけから何か良い方向に行かなければと思います。

「総務文教委員会・行政視察」報告書

H26.11

石橋 孝義

目的：全国学力テスト日本一の秋田県の教育現場、大仙市と東成瀬村の教育委員会及び学校現場を江津市の教育力向上の参考にしたいと視察した。

日時：平成26年10月20日（月） 大仙市議会・教育委員会講義
10月21日（火） 東成瀬村東成瀬小学校視察
東成瀬村東成瀬中学校視察
東成瀬教育長鶴飼孝氏 講義

◎大仙市の学校教育

「共・創・考・開」を柱とした取り組み

・大仙市議会議長	橋村誠氏
教育長	三浦憲一氏
教育指導部長	小笠原晃氏
〃 次長兼教育指導課長	千田寿彦氏
教育研究所長	須田百合子氏
議会事務局副主幹	田中美和子氏

の6名で対応していただく。

◎大仙市の学校教育概要

H26.5.1

- ・市立小学校 21校
- ・市立中学校 11校
 - ・社会福祉法人立幼稚園 8園
 - ・県立高等学校 5校（分校1校）
 - ・県立特別支援校 1校
 - ・学校法人立高等学校 1校

◇ 市立小学校 児童数 3,786人

◇ 市立中学校 生徒数 2,029人

◎ 新しい時代の学校教育 だいせんビジョン

平成19年3月策定

**課題 少子化の急速な進行
学級数、児童・生徒数の減少等**



学校規模適正化推進
 保護者、地域住民との連携体制整備
 幼保・小中高・大学との交流・連携

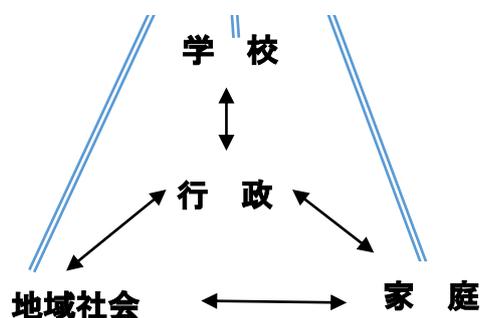


児童生徒が、保護者が学校が、地域社会が、
 「当たり前のことを当たり前にする」ことができる環境づくり

→ 自立した人材育成



◎一人の子供を複数の目で育てる



※ それぞれが同じベクトルで子どもの成長を支える
 基盤づくり

◎ 学校・地域社会・家庭三位一体の組織づくり

◎ 交流と連携による学校活性化と教育の充実

◇ 教育分野の基本方針

未来を創り、心豊かな人を育み、創造力にあふれる人づくり

◇ 教育目標

生きて働く知恵を育み、創造力にあふれる人づくり

共に支えあう力の育成

創造的に生きぬく力の育成

考え、生かす力の育成

開き、信頼される学校

◇ 学校教育の基本方針

学校力を高め、
 家庭・地域社会に信頼され、
 子どもたちの「生きる力」〈人間力〉を豊かなものにする学校教育

→ 大仙市が目指す、
 生きる力

(例) ・他と共に生きるための学力、心力、体力

・ 創造的に考え、実践する力

・ 将来を見据え、自立する意思

・ 未知や困難に挑戦する意欲

「総合的な学力」の育成

「総合的な学力」……教科等の学習指導はもちろん、キャリア教育を一層推進するため、ふるさと教育、食育、防災教育、総合的な学習の時間等教育横断的な教育活動を通し、地域や関係機関等との交流・連携によって育成する力

[今年度の重点]

小・中学校の円滑な持続を図るための9年間を見通した学習指導の充実

共（とも）に支えあう力の育成

ふるさと教育の推進

○ 地域の教育力を生かし、心豊かで郷土愛に満ちた人間を育成

国際理解・国際交流活動の推進

○ 異文化理解を通して、子供たちの視野を拡大

豊かなかかわりの活動の推進

○ 〈自然・人・もの〉にかかわって、共生の精神を育成

教育相談体制の整備と相談活動の充実

○ こどもやほごしゃの悩みに応え、安心して過ごせる学校づくりを支援

（ともに）
共 に支えあう力の育成

国際理解・国際交流活動の推進

- 国際教養大学との交流活動
 - ・ 子供たちが大学を訪問しての交流
 - ・ 留学生が学校を訪問しての交流

豊かなかかわりの活動の推進

- 体験学習の時間支援事業
 - ・ 豊かな体験活動推進事業
 - ・ 小中学校芸術鑑賞事業
 - ・ 農家民宿宿泊体験学習

教育相談体制の整備と相談活動の充実

- ・ 適応指導教室「フレッシュ広場」開設
- ・ フレッシュカウンセラー〈臨床心理士〉や「心の教室相談員」の配置
- ・ 相談電話の設置

(つくる)
創 造的に生き抜く力の育成

豊かな心をはぐくむ教育の充実

生徒会活動の連携

○ 児童会・生徒会の連携で児童生徒の主体性を育成

キャリア教育の一層の推進

○ 夢や志を持ち、その実現のために意欲的に努力する児童生徒の

豊かな心をはぐくむ教育の充実

○ 子供の豊かな情操の滋養を図り、主体性や

学校生活支援事業の推進

○ 子供の学校生活を支援

※ 生徒会活動連携

- ・心触れ合うさわやか大仙事業中（小）学生サミット
- ・あいさつ運動
- ・REVOプロジェクト（環境）
- ・いじめ撲滅宣言
- ・地域防災（避難所開設）

※ 豊かな心をはぐくむ教育の充実

「大仙っこ読書の日」運動

い い つ き も く も く
 11月木黙みんなで読書

※ 学校教育生活支援事業の推進

- ・一人の子供を複数の目で育てる
- ・学校生活支援員等の配置（学校生活を送るうえで様々な課題を抱えている子供たちを支援）
- ・学校生活支援員（H26年度 小中55名）
- ・日本語指導支援員（H26年度 中1名）
- ・学級全体が落ち着いた環境の中で授業に取り組む

(かんがえる)

考 (かんがえる) え、生かす力の育成

学ぶ意欲を高める指導の充実

※ コロンブスの卵わくわくサイエンス事業

「大仙市中学生、首都圏大学総合研究所派遣」

「観察・実験授業スキルアップ出前研修」

- ・大学や総合教育センターとの連携

学力・心力・体力を高める学びの創造

※ 研究指定校の取り組みを発信

- ・ H23.24 教育課程（理科）研究指定校事業
- ・ H24.25 拠点校・協力校英語授業改善プログラム事業
- ・ H24 新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究
- ・ オールイングリッシュでの授業
- ・ オープンスクール

※ 学力向上推進委員会

- ・ 教育研究所が主管
- ・ 5教科 約30名
- ・ (校長・教育専門監・教諭・指導主事)
- ・ 国県学習状況調査、体力、運動能力調査の分析
- ・ 分析資料及びフォローアップシートの提供
- ・ 課題解決策の提案
- ・ 教職員研究集会での提案

※ 教育専門監の配置

[H26 年度5名配置 小学校理科、小・中学校国語、空額、英語]

- ・ 優れた指導力を持つ教諭が複数校を兼務
- ・ 担任等とTTにより、魅力ある授業を提供する

※ 心のプロジェクト「夢の教室」

- 〈音楽バージョン〉
- 〈スポーツバージョン〉
- 〈図工バージョン〉 一流の人と触れ合う

(ひらく)

開 き、信頼される学校

開かれた学校づくり

- 学校間交流、地域や関係機関との連携を図り、諸課題に対応し、信頼される学校づくりを一層推進

学校訪問の実施

- 特色ある教育活動を支援するため学校訪問を実施

教職員研修の充実

- 今日的課題に対応した研修の充実

教職員ネットワークの活用

- 本市学校教育の成果と課題を全教職員で共有

※ 開かれた学校づくり

学校支援地域本部

- 一人の子供を複数の目で育てる
(8小学校・2中学校 全中学校)

- ・ 学習の支援
- ・ 部活動の支援
- ・ 環境整備
- ・ 安全確保
- ・ 学校行事の支援等

※ **地域の教育力を生かした体験活動**

- ・ 各公民館のバックアップ体制
- ・ 各機関、団体、企業との協力
(J A、老人クラブ、商工会、伝統文化保存会等)

※ **だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業**

- (H25 年度実績)
- ・ 被災地との交流 志津川小・中学校との交流
 - ・ 避難所開設訓練 (しない中学校、中学生サミットとの連携)

※ **大仙市 P T A 連合会**

- ・ ノーメディアの提案、実践 ----- チャレンジシートの活用
- ・ 学校視察で他行から学ぶ研修会の実施
- ・ 講演会に実施
- ・ 市教委と子供の学力や体力について成果と課題を共有

※ **家庭学習の手引き ----- 過程を学びの環境に**

※ **子供と親と教師がつながる一人勉強ノート(学習習慣の確立)やることが大切**

- ・ 自分で学習計画を立てる(時間、内容)
- ・ 毎日継続、教師がコメント、親も見守る(コメントを記入して返す)

教職員研修の充実

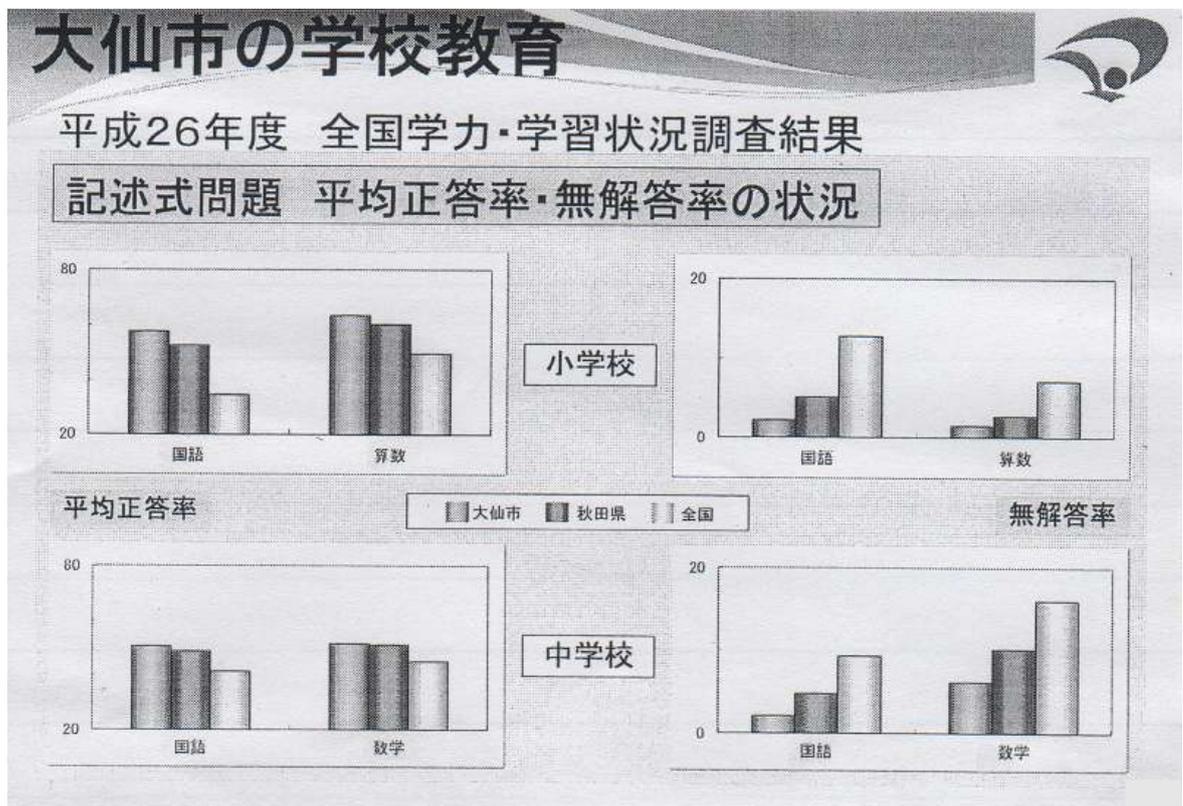
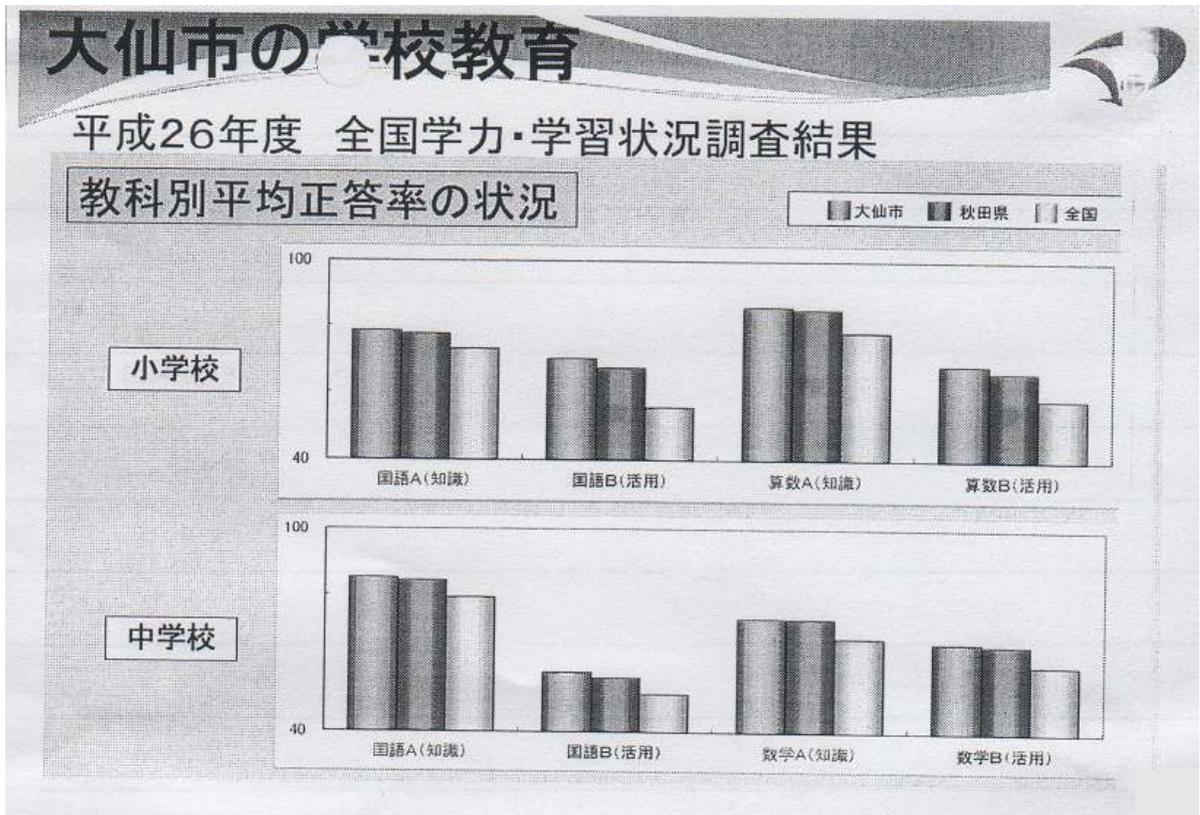
※ **教職員研修会**

- ・ 全教職員による全大会 春夏年 2 回
(課題や実践の共有、中学生の実践発表等)
- ・ 職務別等研修会 年 1 回
(生徒指導主事、研究主任、教科主任等)

取組みの成果と課題

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果から

H26. 4月22日実施



大仙市の学校教育



平成26年度 全国学力・学習状況調査結果

家庭学習の様子

大仙市 秋田県 全国

小学校

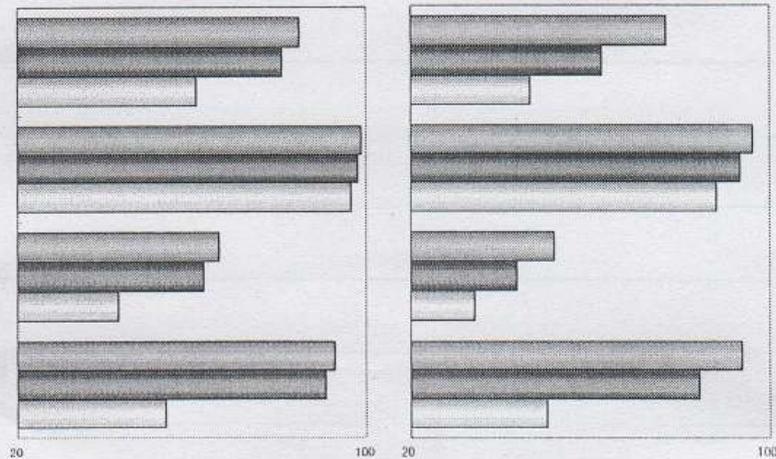
中学校

自分で計画を立てて勉強をしている

学校の宿題をしている

学校の授業の予習をしている

学校の授業の復習をしている



大仙市の学校教育



平成26年度 全国学力・学習状況調査結果

生活習慣の様子

大仙市 秋田県 全国

小学校

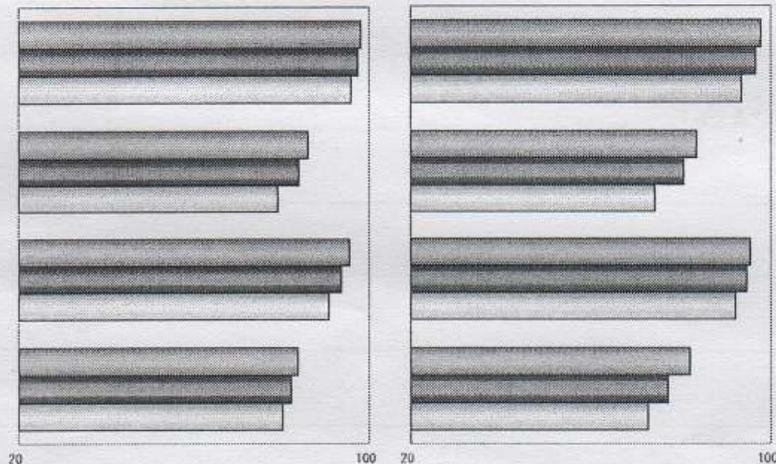
中学校

朝食を毎日食べている

毎日、同じくらいの時刻に寝ている

毎日、同じくらいの時刻に起きている

家の人と学校の話をする



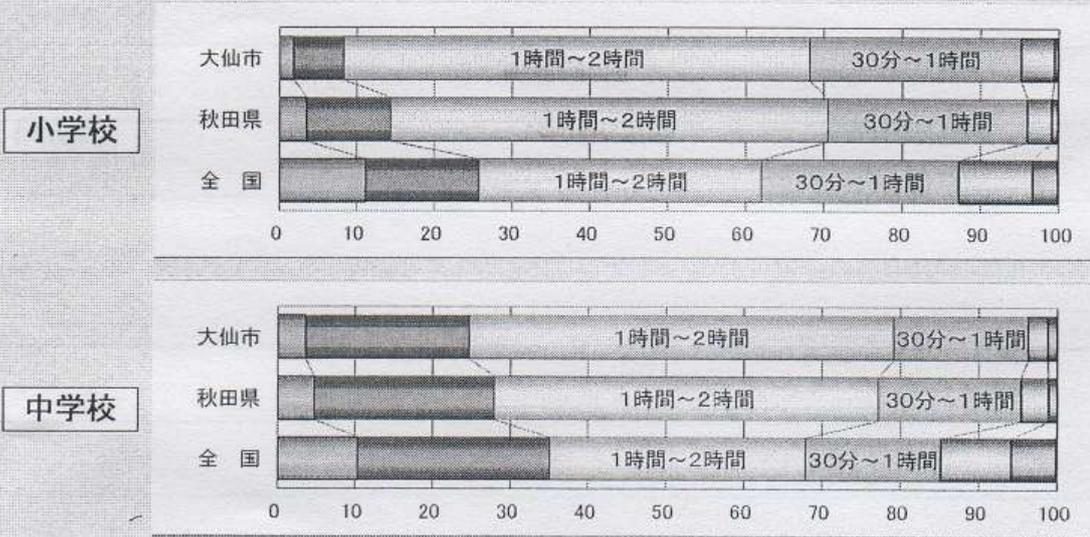
大仙市の学校教育



平成26年度 全国学力・学習状況調査結果

平日の学習時間

3時間以上 2～3時間 1～2時間 30分～1時間 30分未満 全くない



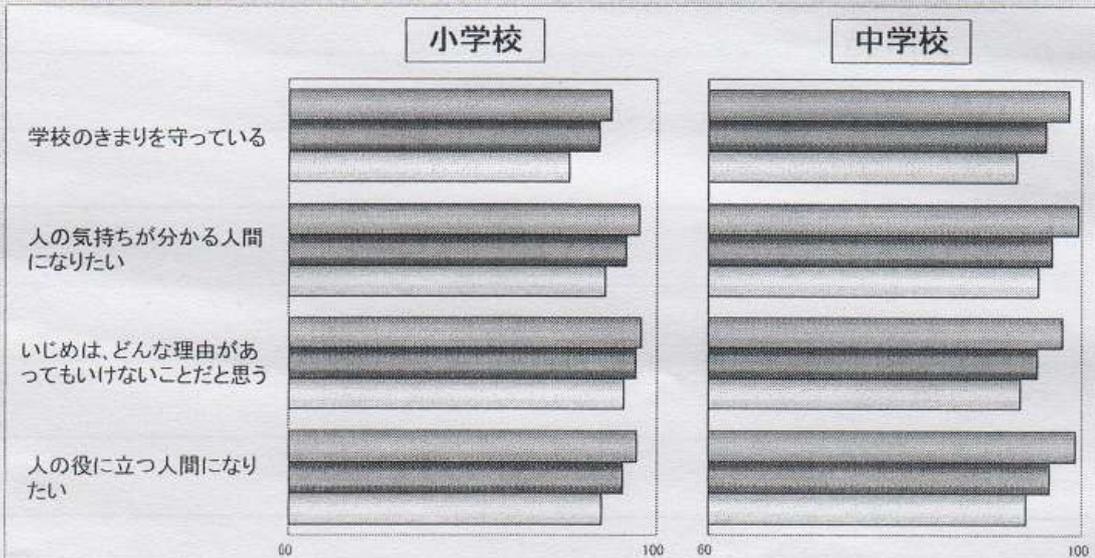
大仙市の学校教育



平成26年度 全国学力・学習状況調査結果

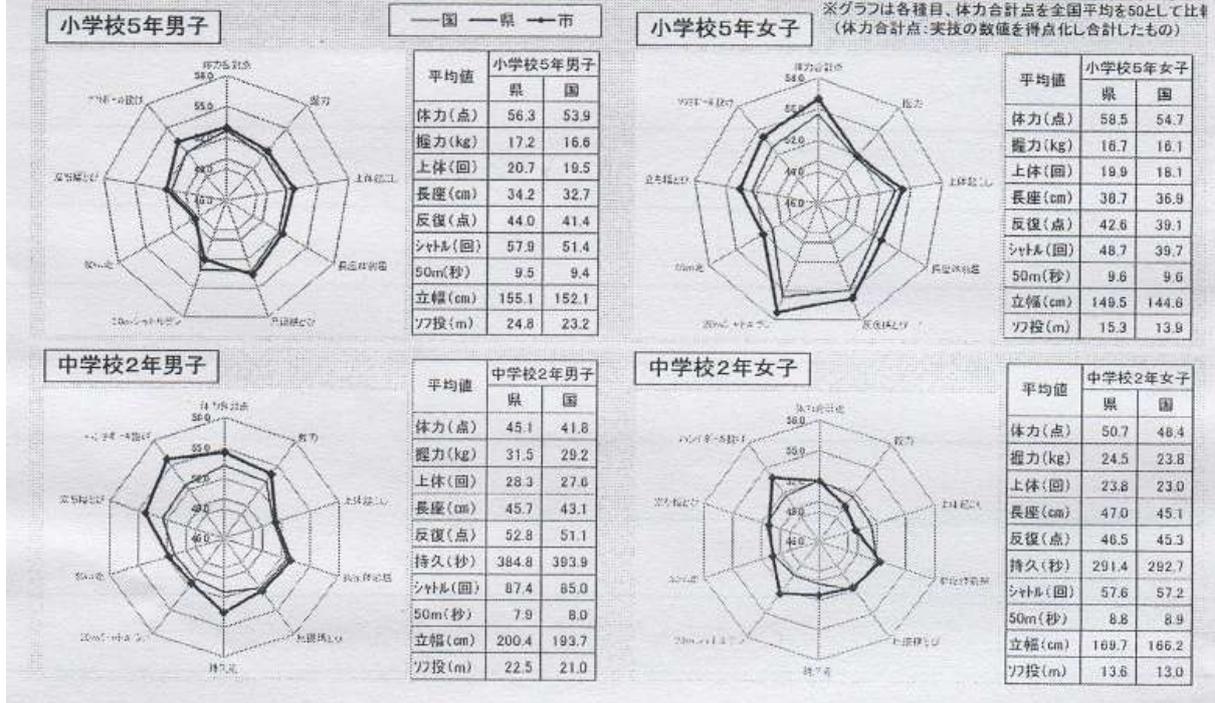
規範意識や思いやりの心

大仙市 秋田県 全国



大仙市の学校教育

平成25年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果



◎三浦教育長のコメント

- ・大仙市では、移動教育委員会を32校で開催
- ・有識者が集まり、大仙市公聴会 将来自立してほしいとの思い
- ・小・中学校で土台作りを行う
- ・大仙市PTA連合会 地域、保護者、学校も連携
- ・創造の花火(大仙市は日本三大花火開催の市)を上げたい
- ・音楽の町 中学校全国音楽祭
- ・全校オペラ
- ・部活動と文武両道を目指す
- ・40数年前まで全国で学力テストは47位
- ・安定した学力をつけるため下の底上げ 補助学習を大学・高校の退職者の力を借りる
- ・伸びる子を伸ばそう 20名留学
- ・プロで守っていこう プロの選手の招へい
- ・意欲に繋がる 一番のテーマ
- ・機会を与え意欲 元気な教育
- ・沖縄糸満市小中学生と一緒に学ぶ 他県ともお互い学びあう

◎ 私見

1. 過去の全国学力テストの下位の結果から、いかにしたら学力の向上になるか、県教委・市教委が多くの学識経験者を交え、徹底的な検証の中で中長期の具体的行動計画を策定し、取り組んできた結果が良い方位へつながった。
2. 県・市ともに「教育理念」「教育方針」がはっきりしていて、保護者・子ども・教職員・地域が共にしている。
3. 教職員が問題を共有していて対策を立てるシステムが出来ている。
4. キャリア教育をしっかり行っている。
5. 子どもたちの「生きる力」〈人間力〉を豊かなものにする学校教育が功を奏している。
6. ひどいモンスターペアレントがいないのもうなずける。家庭、地域、教職員が共同で子どもを育てている。
7. 家庭学習の定着と先生のコメント書きでやる気の醸成になっている。
8. 教育研究所の分析・支援が大きな力となっていると思う。
9. 再度、資料を読み返し、江津市教育の参考になればと考えている。

☆東成瀬村教育委員会・東成瀬小学校・東成瀬中学校視察

10月21日(火) 8時30分～16時45分

東成瀬村教育委員会 教育長 鶴飼孝氏

「共に学び合う教育」

○東成瀬小学校 学校統合(4校)平成13年

児童数 114人

教職員数 15人

○東成瀬中学校 学校統合(5校)昭和52年

生徒数 67人

教職員数 15人

○教育視察者から学ぶ

1. 視察者の現状

(1) 地域 全国各地、韓国

(2) 人数 900人ほど(内、韓国から約150人)

(3) 職業 教員、研究者、大学教授、教育委員、社会教育委員、地域づくり関係者、報道関係など

○ 教育行政方針

1. 村だからできる、やる教育(実態、独自性)
2. 社会総参加の教育(個性の尊重)
3. 継承と発展(着実な発展)
4. 地域社会づくり、生きがいつくり(積極的な関与)
5. 創意工夫(新たな枠組みづくり)

○ 教育を進める心

1. 自信と誇り (力をつける)
2. 安心感と信頼感 (温かい人間関係)
3. 人のシャワーを浴びて人になる(人間の機微に触れる)― 異年齢活動→小中連携教育
4. 集団の多様性 (学びあう教育)
5. 教育に上限はない (可能性を伸ばす)
6. 2合目から3合目へ (創意工夫)
7. 希望と未来 (教育の本質)
8. 1年間で伸ばす (成長に一喜一憂しない)
9. 平均点と一人ひとり (個に応じた指導)
10. 4日目以降が勝負 (甘えと無責任)

◎ 学力向上

1. 基本的な考え方

(1) 「これぞ」「これさえあれば」…… 決め球はない

「当たり前前の方が当たり前前ができる子どもの育成を図る」

(2) 最小限の条件

- ① 子ども 素直、仲が良い、がんばり屋
 - ② 教職員 教育愛、一人ひとりを
 - ③ 保護者 理解、協力
 - ④ 地域住民 慈愛、支援
 - ⑤ 行政 条件整備、財政支援
- (3) 感性を磨く 知・徳・体から、多様性から学ぶ

2. 重点施策

(1) 小中共同実践事項

- ① 授業改善で良くしていく、やる気を出させる授業構想の共通実践
 - ② 個に応じた指導力の充実（村費講師の活用、加配教員の活用、少人数学習）
 - ③ 学級集団作り
 - ④ 学習意欲の向上
 - ⑤ 家庭との連携 ----- 家庭学習、ノート
 - ⑥ 家庭学習
 - ⑦ チャレンジ精神
 - ⑧ 読書活動 読解力と表現力の向上
- ※具体的に3つ以上取り組む

(2) 重点事業

- ① 小・中連携教育（知 徳 体）
 - (ア) 小規模少人数 人と触れ合う
 - (イ) 中一ギャップ
 - (ウ) 一貫した教育
 - (エ) 枠を超える 要衝連携小一プログラム
 - (オ) 共に学ぶ 先生方の指導力を高める
- ・ 知育 授業改善 秋田教授に授業を受ける、グループ別協議する
- ・ 徳育 キバナコスモス植栽
- ・ 体育 パークゴルフ、グラウンドゴルフ
- ② 幼少連携教育
 - (ア) 子どもの交流
 - (イ) 教職員の交流
 - (ウ) 広報活動
- ③ 村「学習塾」
 - (ア) 学力、意欲の向上
 - (イ) 地理的条件の克服
 - (ウ) 村が主導（会場、講師、経費など）

- ④ 挑戦の機会
- ⑤ 豊かな体験活動 国際理解教育 ブルガリア大使来村
等をしっかり取り組んでいく

※ 平成 26 年度教育関係予算

一般会計予算額 3, 102, 000 千円 (3, 114, 000 千円)

教育関係予算額 292, 802 千円 (278, 190 千円) **9.44%**

() は前年度当初予算額

(1)教育総務費	48, 537 千円	(4)社会教育費	26, 072 千円
(2)小学校費	45, 751 千円	(5)保健体育費	27, 401 千円
(3)中学校費	39, 305 千円	(6)児童福祉費	105, 736 千円

◎ 東成瀬小学校 教育計画

- 研究主題 **「自ら学ぶ子どもを育てるために」**
～かかわりあって作る確かな学び～
- 学校教育目標 「夢いっぱい かしこく やさしく たくましく」
- 経営の理念 「風うたい 水きらめく成瀬の里で 心ひらいて
夢をはぐくむ 東成瀬小学校 ～輝く瞳 はつらつと～」
「かかわり」と「夢」をキーワードとした教育活動を盛り込む経営

○ 目指す子ども像

- 1.夢に向かう子 自分の良さや可能性を追求し、発揮する子ども
- 2.かしこい子 自ら学び、自ら考え、常により高い自分を求めて努力する子ども
- 3.やさしい子 暖かい思いやりの心を持ち、他と協力してともに高まろうとする子ども
- 4.たくましい子 自らの心と体をもって、目標実現に向けて、粘り強く努力する子ども

○ 経営の基本方針 信頼される学校づくりに努める ～成長と学力の保障～

- 1.人間的な関わり合いを大切にし、豊かな感性や健やかな身体が育つ学校づくり
[心をひらく]
- 2.一人一人の子供に「わかる授業」が保障される学校づくり
[授業をひらく(開く、拓く)]
～「わかった、できた」を実感させる授業づくり～
- 3.教育活動全体の改善に結ぶ「連携」をキーワードにした開かれた学校づくり
[学校をひらく]
～地域の「ひと・もの・こと」を大切にした教育実践～
- 4.社会の信頼に応え、教育者として誇りを持ち、研究・研修を重視する学校づくり

[共にひらく（拓く）]

～不断の研修意欲と同僚性を大切にした研究・研修の推進～

○ 今年度の経営の重点

1. 日々の授業改善を通して確かな学力の定着と向上を図る
2. 豊かな心を育む教育活動の充実を図る
3. たくましい心身を育む教育活動の充実を図る
4. 夢や希望を持ち、よりよい生活の向上を図る

○ 小中共同実践努力事項

- | | |
|--------------|--------------|
| ① 授業改善 | ⑤ 家庭との連携 |
| ② 個に応じた指導の充実 | ⑥ 家庭学習の充実 |
| ③ 学級集団作り | ⑦ チャレンジ精神の育成 |
| ④ 学習意欲の向上 | ⑧ 読書活動の推進 |

※ 人は人のシャワーを浴びて人になる 小中連携教育の理念

※ 授業(45分)の基本スタイル

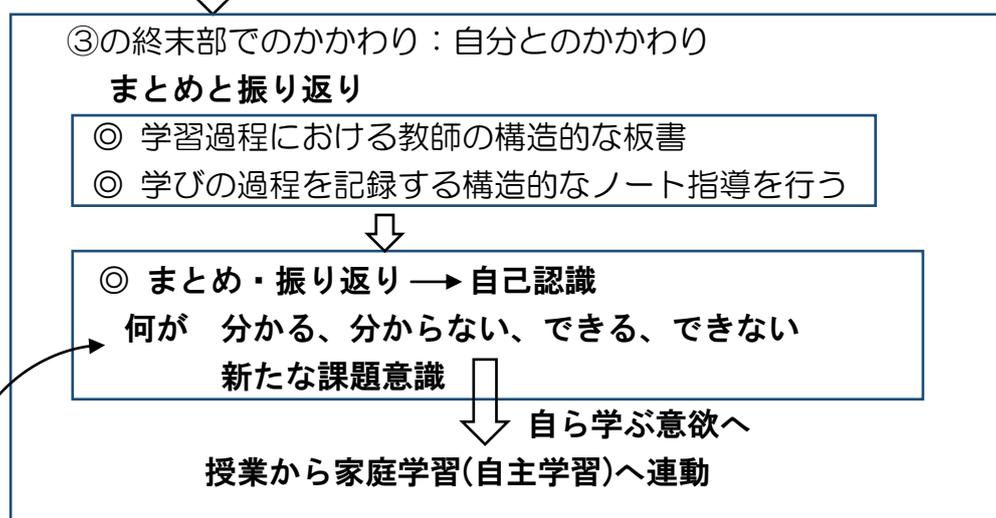
- ① 導入：子供が課題をつかむ〈課題設定〉



- ② 展開：子供同士がかかわり合って学び合う〈学び合い〉



- ③ 終末：子供が自分で「わかった、できた」を振り返る〈まとめ・振り返り〉



45分授業の最後5～8分ぐらいを使い、必ず全時間、子どもが教壇に立ち、子どもに問いかけて、分からないところを皆で納得する「振り返り」は、自力をつける最大のポイントと感じた。

◎ 東成瀬中学校の教育

「自ら学び 心豊かで たくましく生きる 生徒の育成」

～生徒の将来の夢につながる「今」を大切にする教育の実践を通して～

〈Ⅰ.学校経営の概要〉

・平成17年10月 耐震補強校舎大規模改修工事終了

1. 地域の実態

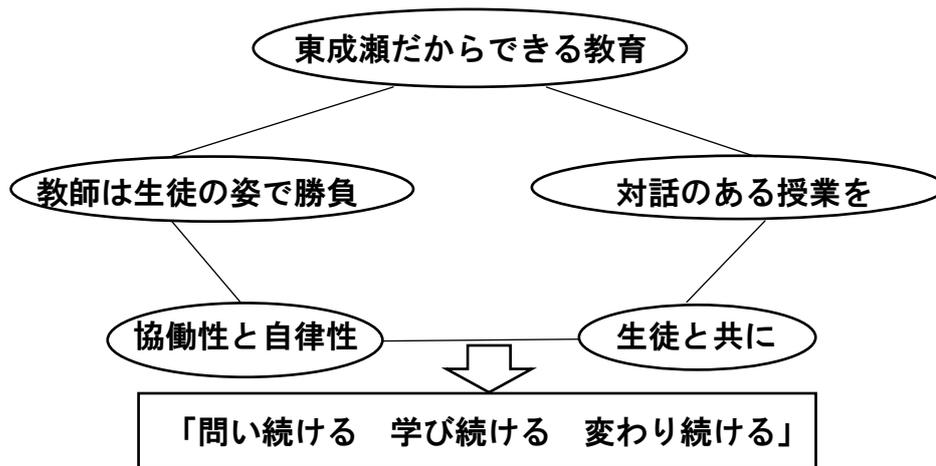
- ・保護者世帯数 41 世帯
- ・約7割が三世帯同居
- ・PTAの参加率が高い 90～100%近い
- ・学校の諸活動に対してとても協力的

2. 生徒の実態

- ・真面目な学習態度、集中力の持続
- ・やさしさと協調性、素直さ
- ・積極的にかかわろうとする力、自分の考えや思いを自分の言葉で伝える力

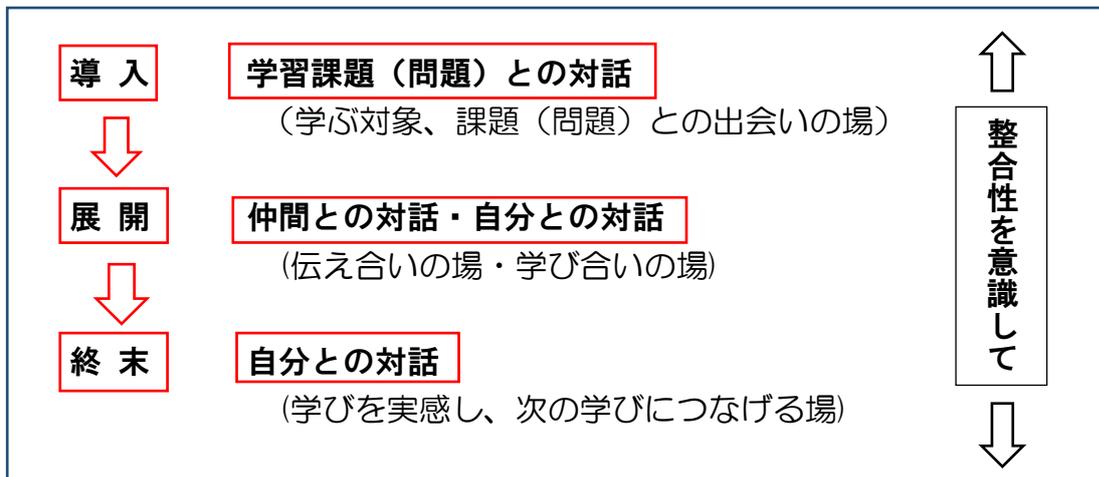
3. 経営の重点として

4.

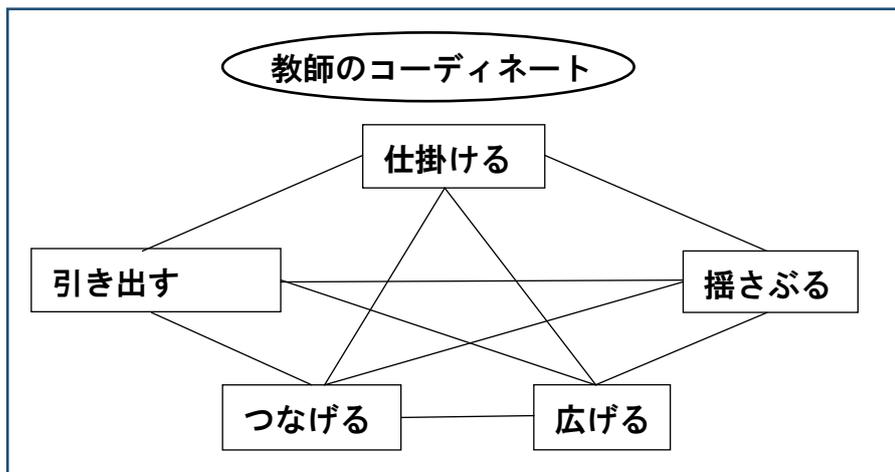


〈Ⅱ.学力向上の具体策〉

1. 小中連携で取り組む「対話」をキーワードにしたメリハリのある授業



2. 教師のコーディネート力向上による授業の活性化



一対一、一問一答の授業から豊かなかかわりのある授業へ

3. 学び合い指導の発展

～各教科における「学び合いの姿」をイメージして～

生徒一人一人が学習や課題に主体的に取り組む中で、他との豊かなかかわりを通して知識や理解を深め、自らを高めていく姿



4. 指導体制の工夫・改善

一人一人の学びの履歴を踏まえたきめ細やかな指導

☆ 数学科におけるTT, 少人数学習指導

- ・ 単元末におけるコース別学習の展開
- ・ 「数学自学ノート」の実践(一・二年、毎日)
- ・ 昼休み、放課後の個別指導の実施

☆ 英語科におけるALTとのTT(月・火・金)

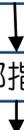
- ・ 実践的なコミュニケーション能力の育成
- ・ ペアやグループなど 多様な学習形態の設定
- ・ 英語を学ぶ環境整備

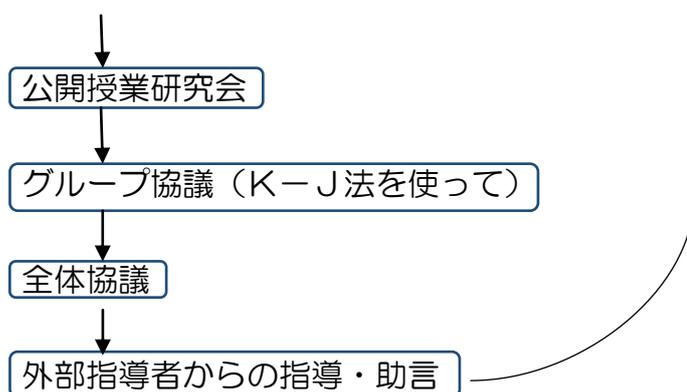
5. 同僚性を高める組織的な研修の推進

① 小中連携授業研究会(小1回、中1回)

小中合同チームによる事前検討会

外部指導者から指導・助言





② オープン授業「やってらんし!」

- ◇ 一人「やってらんし」で刺激と交流
- ◇ 空き時間の教師が参加する 無理のないスタイル
- ◇ 教科の枠を超えた教師同士の「助け合い」
- ◇ 授業の視点を明らかにした実践と研修
- ◇ 参観のコメント 研究部報に掲載

全員で共通理解

校種・学年・教科の枠を超えて

〈Ⅲ.特色のある教育活動〉

1. 小中連携教育の推進 小中教員の教育力を結集

「徳・知・体」3部会に分かれての組織的な取り組み

◎ 徳育部会

- ・キバナコスモス植栽活動 1. 5km 小中学生が一緒に植える

◎ 知育部会

- ★ 系統性のある学習支援を行うことによる確かな学力の定着と向上
- ★ 教師一人一人の授業力の向上
 - ・小中学校授業参考
 - ・小中交流授業
 - ・基礎学力テスト(仙人テスト)
 - ・合同研修会・授業研究会

◎ 体育部会

- ★ 豊かなスポーツライフにつながるスポーツ交流
- ★ 健康な体への関心と感謝の心育てる弁当作り
 - ・パークゴルフ・グランドゴルフ交流会
 - ・部活動交流

「交流をしながら、
さわやかな汗!」

2. 朝の活動 15分の有効活用 (8:15~8:30)

- ☆ 月 読書(職員打合せ)

- ☆ 火 1年 視写、2・3年 意見文
- ☆ 水 全校ミニ討論会(全校縦割り、3～4人グループ)
- ☆ 木 読書(職員打合せ)
- ☆ 金 読み聞かせ、読書

3. TSB活動 全校生徒による吹奏楽活動「東中スペシャルブラス！」

- ☆ 生徒同士が教え合い、音と心をつなぎ合いながら一つの曲を演奏する
〈昨年挑戦した曲〉
 - ・「あまちゃん オープニングテーマ」
 - ・シング シング シング

4. わが村体験学習 村内事業所1か所で勤労体験学習

- ☆ 稲作農業体験
 - ☆ ホテルで風呂洗い
 - ☆ ペンションで弁当作り
 - ☆ 薬局で薬剤師体験 etc.
- * これは江津市でもやっていますネ。

5. HMS音楽祭 ---- 東成瀬中(H)、皆瀬中(M)、須川中(S)の3校合同での 合唱コンサート(10月22日(木) オービオン)

- ☆ それぞれの学年が、課題曲・自由曲に挑戦し、交流を深めながら競い合う。
～ 心に刻む 幸せのハーモニー ～

6. ポスターセッション ---- 東中P1・S1グランプリ決定戦

- ☆ 「総合の時間」のまとめをポスターにし、発表会を実施
- ☆ P1(ポスターNO.1) S1(セッション)NO.1を決定
- ☆ 東中祭で保護者の方々も投票

7. 仙人思考コンテスト ---- 自分で考え、競い合い、可能性を最大限に伸ばす!

- ☆ 知的好奇心、挑戦意欲を高める問題を出題する
- ☆ ポイント制にし、学期ごとの表彰で意欲を高める
- ☆ 全教科からの出題を目標に、職員全員で取り組む

8. グローバル「夢」ミーティング --- 小6・中3全員が秋田大学の留学生と交流

- ☆ 国際理解・交流
- ☆ 英語力アップを図る
- ☆ 将来の夢～キャリア教育
- ☆ コミュニケーション能力・表現力 → わが町の良さを英語で紹介

9. 学習オリエンテーション・学習集会・全校教科面談

○ 学習オリエンテーション(4月)

- ☆ 中学校の学習について
- ☆ 「東中スタイル」の確認
- ☆ 2・3年生から1年生へ

○ 学習集会(5月)

- ☆ 授業や家庭学習ノート作り
- ☆ 学習委員会が中心になって行う

○ 全校教科面談

- ☆ 全校生徒が対象
- ☆ 5教科の教科担任とマンツーマンの教育相談
- ☆ 年1回実施(2学期)

10. 俳句集会 毛筆を使って「夏」「秋」の2回俳句作りに挑戦

〈 私 見 〉

1. 教育委員会として、中長期の「教育行政方針」「学力向上施策」や「行動計画」がシンプルに子供や生徒の立場に寄り添って「当たり前」のことが「当たり前」にできる子どもに」というコンセプトで策定され、その行動計画が明確にされている。
2. 学校・地域・保護者が一体となって、子どもの教育に真剣に取り組んで、熱意が感じられる
3. H26年度教育予算が一般関係予算の9.44%292,802千円(ちなみに江津市は、5.3%850,355千円)と全体比率が高く、子どもや生徒の教育は、投資の意味で予算の裏付けがされている。
4. 鶴飼教育長の教育に対する気持ちが真摯で、熱意を感じた。
5. 教育現場の子供・生徒が、皆、集中してのびのびと楽しく学習している。
6. TT(チーム・ティーチング)で、全校生徒に目を届かせて教育をしている。
7. 小学校の教師が集中して教えることができるように、支援員を村費で雇用し、助成している → 教師も午後7時以降の残業者がいないとのこと → 先生がやるべき仕事と、それを支援する委員長・校長や支援員がうまくハーモニーが取れて、集中教育ができるようにシステム化している。
8. 各授業の最後5~8分の「振り返り・自己認識」が、非常に理解度に貢献して、実績に繋がっていると感じた。
9. あえてこと細かく報告したが、これを目にする人々に参考になればとの思いと、私自身が学んできたことを少しでも共有できればとの考えで長い報告書とした。

終わり

総務文教委員会行政視察報告

委員 藤田 厚

下記日程にて行政視察を行いましたので報告いたします。

☆日程 平成26年10月20日(月)～10月22日(水)

☆視察先 ①秋田県大仙市②秋田県雄勝郡東成瀬村

★主な目的

学力が、全国でもトップレベルにある。上記、大仙市と東成瀬村の小中学校における学力向上の取り組みについて、視察を行い今後の議会活動に活かす。

1. 大仙市

【内容】

平成17年1市6町1村が合併した大仙市は、全国学力・学習状況調査の結果で常に全国トップレベルである。大仙市の学校教育は、基本方針を【共（共に支え合う力の育成）、創（創造的に生き抜く力の育成）、考（考え、生かす力の育成）、開（開き、信頼される学校）】というキーワードに、子ども、保護者、学校、地域社会が「当たり前前を当たり前にする」ことができる環境づくりのため、「子どもたちの居場所があり、ともに喜んで登校できる学校」、「感性や主体性、創造性を育む特色ある学校」、「より一層、知と心と体のバランスのとれた子どもを育む学校」、「地域社会や家庭への情報発信を推進し、地域と共につくる学校」を学校教育の重点とし、具体的な事業展開をされている。具体的な取り組みとして、留学生（国際教養大学）との交流活動、教職員対象の「観察・実験授業スキルアップ出前研修」や中学生対象の首都圏大学・総合研究所への派遣、中学生サミット、市議会議場での中学生議会のほか、常時活動として、子どもが自分で学習計画を立て、毎日継続し、教師がコメントして親も見守る、1人勉強ノートの活用などや、優れた指導力を持つ「教育専門監」の配置、ノーメディアデーの設定などが挙げられる。

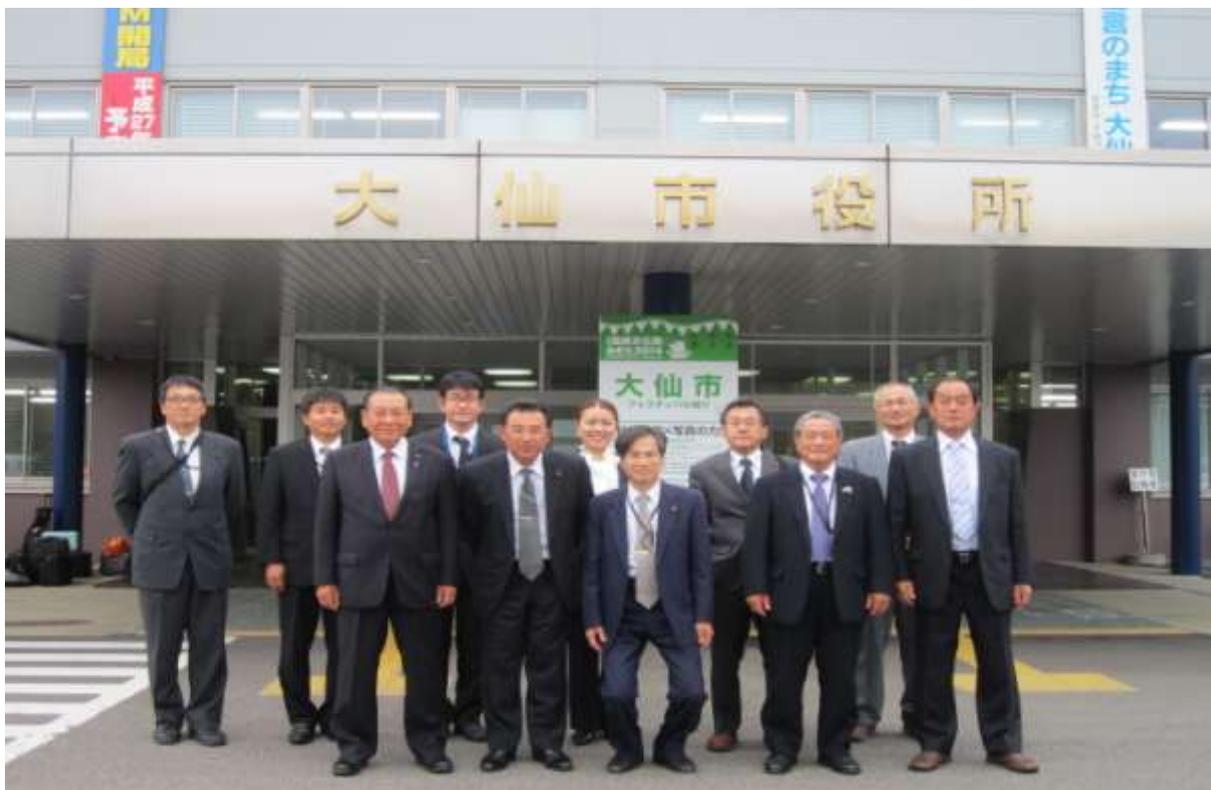
全国学力・学習状況調査の結果が良い成績になっているのは平均点が良いということであって、共・創・考・開を柱にした取り組みを通して、1人ひとりに学習習慣、生活習慣が着実に身につけていると教育委員会は評価していました。

●まとめ

市独自で教育研究所を設置して、学校と県教育委員会・市教育委員会・地域などとの中間的役割を果たし、積極的にモデル校の選定に手を上げるなど積極的な姿勢が目立つ。県の手厚い教育施策と相まって積極的な取り組みが評価できる。また、教育専門監の配置や、家庭を学びの環境にする取り組みでもある「ノーメディアデー」、「早ね、早起き、朝ごはん」の奨励などからも、全国学力テストで全国トップクラスに位置していることもうなずける。

各地域の公民館のバックアップ体制や各機関、団体、企業の協力体制、中でも、

地域コーディネーターが学校と地域のパイプ役となり、ボランティアの方々に学校を支援してもらうとのことであったが、本市でもまだまだ、うまく取り入れる方法を模索する必要があると感じた。例えば、ボランティア（有償）での学習塾など実践するなども一考ではないかを感じる。



2. 東成瀬村

【内 容】

NHKのTV番組で紹介された、学力日本一！秋田県でも抜きん出て高い成績を上げている学校が、「山の中の小規模校・東成瀬小学校・東成瀬中学校」だということ視察をしました。

「かかわり」と「夢」を理念とした教育活動を盛り込む、めざす子ども像を1、夢に向かう子 2、かしこい子 3、やさしい子 4、たくましい子を上げて、基本方針として信頼される学校づくりに努める ～成長と学力の保障～を目指し、キーワード：【ひらく（開く・拓く）】として1. 人間的な関わりを大切にし、豊かな感性や健やかな心身が育つ学校づくり【心をひらく】～人と人とのかかわり合いの中で育む「生きる力」～ 2. 1人1人の子どもに「わかる授業」が保障されている学校づくり【授業をひらく】～「わかった・できた」を実感させる授業～ 3. 教育活動全体の改善に結ぶ「連携」をキーワードにした開かれた学校づくり【学校をひらく】～地域の「人・もの・こと」を大切にした教育実践～ 4. 社会の信頼に応え、教育者としての誇りを持ち、研究・研修を重視する学校づくり【共にひらく】～不断の研修意欲と同僚性を大切にした組織的な研究・研修の推進～、を掲げ、小中学校共実践項目として1. 授業改善 2. 個に応じた指導 3. 学習集団づくり 4. 学習意欲の向上 5. 家庭との連携 6. 家庭学習 7. チャレンジ精神を育む～子ども1人1人の“夢”を大切にした学校運営～ 8. 読書活動の推進を項目として具体的施策を連携して展開しておられました。

特に、授業中に大勢で教室に入ってもどの学年の子ども達も動じず、授業に集中していました。さらに、授業時間終了約10分まえに、授業の【振り返り】時間を取り反省時間を取って、分かった分からないことなど自己認識した授業が行われ、自ら学ぶ意欲（自主学習ノート）への連動となっていました。

したがって、中学校ではレベルの低い問題に悩まされることなく、教員は学力向上に専念できているとの説明があった。これまで学力テストで「100点取れてよかったね」という100点満点がゴールという考えから、さらに200点、300点を目指す、伸びる子をもっと伸ばすために難問に挑戦させて勝敗表で競うといった仕掛けづくりに取り組まれている。また、教室はもちろん廊下や階段などあらゆる所に掲示物があり、競争心をあおる取り組み出来ていたり、内容など先輩や先生の評価（コメント）なども書かれている。また、「自学ノート」についても先生のフォローや上級生のアドバイスの付箋を張っていくなど工夫がされていた。

鶴飼教育長が新年度転入の先生に話すこと。～「東成瀬村の教育を進める10のキーワード」～

- ①東成瀬村の出身であることに自身と誇りを持てるよう、力をつけさせる。
- ②温かい人間関係の中で、安心感と信頼感を育てる。
- ③人のシャワーを浴びて育つよう、できるだけ多くの人に触れさせる。

- ④集団の多様性を活かし、学び合う教育を行う。5+5=10でなく、20, 30にもなるように。
 - ⑤教育に上限はない。可能性を伸ばすために、ハイレベルの内容にも挑戦させる。
 - ⑥2合目から3合目へ上がるために阻害要因を取り除いていく。それでもだめなら行政が頑張る。
 - ⑦教育の本質である希望と未来を失ってはならない。
 - ⑧テストの結果等に一喜一憂せず、1年間で伸ばす。という信念を貫く。
 - ⑨平均点(まで責任を持つ)と1人ひとり(子どもに応じた指導)の両方を丁寧に。
 - ⑩4月の4日目以降が勝負。前の学校のことは言わない。東成瀬村の教育を実践する。
- 以上のような考え方で教育を進められています。

●まとめ

今回は、異例の「村」への視察でありましたが、教育長自ら説明し8時30分～16時まで、昼食中もビデオを見ながらの丁寧に熱心な対応に頭が下がりました。名物の自学ノートや先生のフォローなど、まだまだ江津でも取組を学ぶべき所があるように感じました。今回、教育委員会から2名同行して頂いたことは大変良かったと感じています。今後の取り組みに期待出来るものと思います。





総務文教委員会行政視察報告

H.26.11.13

土井 正人

◆視察地 10月20日 秋田県大仙市

◆視察目的 小中学校における学力向上の取り組みについて

◆研修事前質問

1. 高校、大学との連携について
@農商工高との実践事業の実施(小中共に)大学との連携も実施
2. ふるさとUターンについて
@奨学金制度(平成25年度より市内在住5年で無料)
3. ふるさと就職率、Uターン率について
@2の回答と重複
4. 学力向上について教員への研修や教育の内容について
@学校開放が最大の効果、教員の研修につながる
5. 放課後子ども教室、地域とのかかわりについて
@支援制度により27のボランティア団体と連携している

◆研修内容

平成17年3月に1市6町1村の合併により、大仙市となる

1. 合併前より各層からの有識者会議を実施し、基本方針を定める
2. PTA役員と共有し、信頼関係を築く
3. 支援員コーディネーター(教員の要望に対して地域で対応出来る)システム
4. 学校が動きやすい体制作りの支援、教育委員会が行なう
5. 小学校で教科担任制を取り入れる

などなど

◆具体的な取り組み

「共、創、考、開」を柱とした教育の実践

1. 「共」(ともに支えあう力の育成)
 - ①ふるさと教育の推進(農家民泊体験など)
 - ②国際理解、国際交流(中学生海外派遣など)

- ③豊かなかかわりの活動の推進(国際教養大学との交流など)
 - ④教育相談体制の整備と相談活動の充実(心の教室相談員の配置など)
2. 「創」(造的に生き抜く力の育成)
- ①豊かな心を育む教育の充実(読書の日設定など)
 - ②生徒会活動の連帯(中(小)学生サミットなど)
 - ③学校生活支援員の配置(H26年小中で55名)
3. 「考」(考えを生かす育成)
- ①サイエンス事業(千葉大学、日本科学未来館、産業技術総合研究所等との連携)
 - ②一人の子どもを複数の目で育てる(TT、少人数、教科担任制など)
 - ③学力、心力、体力を高める学びの創造(オールイングリッシュ授業、研究指定校の取り組発信、教育専門監の配置(H26年5名)、心のプロジェクト「夢の教室」などetc.)
4. 「開」(開放し信頼される学校)
- ①地域の教育力を生かした体験活動(団体、企業、公民館等との連携)
 - ②学校支援地域本部(全中学校区)
 - ③防災教育(生き抜く力育成、被災地との交流など)
 - ④PTA連合会(研修会、親子での取り組み)
 - ⑤学習習慣の確立(子どもと親と教師がつながる一人勉強ノート)
 - ⑥家庭を学びの環境(9年間のカリキュラム)
 - ⑦教職員研究集会(年2回課題や実践発表など)

◆感想

合併前から教育についての方針づくりが行なわれている。
教育研究所の存在が大きな役割をしている。(独立した機関として)
教育現場と委員会とのつながり、結び役を担っており委員会(教育長)
との意識が共有されている。
外に開かれた教育現場があることを改めて認識した。
学校の視察が出来たら、もっと良かったと思えた。

◆視察地 10月21日 秋田県雄勝郡東成瀬村

全国学力調査によれば、日本一の学力で知られる人口 2,800 人の一村一中学一小学校の視察を実施。

当日 8：30～16：30 までの一日中の視察となり、大変充実した内容であった。

午前：小学校において学校経営説明、授業参観、校舎見学、教育長の教育行政への熱い思いを拝聴

午後：中学校において学校経営説明、授業参観、校舎見学、質疑を行なう

◆感想

何より一日中の視察研修はあまり例がないが、年間 1,000 人以上の視察があるとのこと、そして、すべて一日の日程でないと受けないとのこと。

教育長の教育に対する思いが並はずれて大きく、こんな小さな村を巣立っていく子どもたちに世界に出たとき誇りに思えるものを持たせてやる、それには教育しかない、の思いがひしひしと伝わって来た。

教育長自ら一日中の付き合いで、これで年間 1,000 人以上かかわっているのも驚きである。

日本一になるために特別なことはしていない。まさにその通りの教育現場であった。

最大の特長は、学校が開放されていること。全国からの視察の人が毎回授業参観する、普通の授業風景を自由に教室に入り勝手に参観する（普通あり得ない状況と思える）そうした中、子ども達、小学校一年生からして何ら動揺しない、先生もきわめて冷静に受け止めている。

（本市においては学校視察したいと言えば、校長会にはかり、指定日時においてのみ許される。全く閉鎖されている、全国的にもこれが普通なのかもしれませんが）

授業の内容の善し悪しではないような気がする。まずもって学校を開放することから始めないと、と強く感じた。

一見は百聞に如かずを実感した、本当に今度の視察研修は実のあるものであった。

この一部でも本市の教育に役立てられるものならと思う。

総務文教委員会行政視察報告

総務文教委員会副委員長 山本 誉

この度の視察は、前年度の学力テストにおいて江津市は県内最下位になっていたことから、当市においても教育委員会として学力向上に向けた様々な取り組みが進められているにもかかわらず、なぜ大きな格差が生じているのか、またその原因はどこにあるのか、先進地の教育を江津市にも取り入れることは可能なのか、等々、所管の委員会として研究しようという目的での視察であった。

そのために、事前勉強会を行い、当市の教育委員会より県学力調査結果を踏まえた分析及び検証、学力育成に向けた主な取り組みについて報告を求めるとともに、教育委員会からも指導主事1名、学事係長1名も同行していただいたの視察を行った。

◆秋田県大仙市（平成26年10月20日）

2005年3月22日合併(1市6町1村)

人口87194人 世帯数31169世帯

市立小学校 21校 児童数 3786人

市立中学校 11校 児童数 2029人

●視察テーマ 小中学校における学力向上の取り組みについて

◇基礎学力の向上について

大仙市では秋田県の「国・県の学力調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクル」の確立に向けた取り組みに呼応して、平成19年度に「**新しい時代の学校教育だいせんビジョン**」を策定し、保護者、地域住民との連携体制整備、幼保・小中高・大学との交流・連携の中から、

児童生徒が、保護者が、学校が、地域社会が

『当たり前のことを当たり前にする』ことができる環境づくり

を掲げ、**自立した人材の育成**を柱に、

○学校、地域社会、家庭三位一体の組織づくり

子どもと親と教師がつながる1人勉強ノート・農家民宿宿泊体験学習など

○交流と連携による学校活性化と教育の充実

・中学生海外派遣事業 ・国際教育大学との交流活動・生徒会活動としての中(小)学生サミットなど

に取り組み、学校ごとに特色ある教育づくりが展開されている。

また、市内の校長、教育専門監、教諭、指導主事がリーダーとなって、5教科30名で「学力向上推進委員会」を作り、全国学力テストなどの結果を分析し、フォローアップシートなどを作成して授業の改善に生かされていた。

◇大仙市教育研究所

教育委員会の中に置かれ、教育委員会と学校現場とのつなぎ役的な存在で、指導主事や退職校長などで組織され、課題解決策の提案などされている。

【所見】

大仙市は「生きる力」を見つけるために、教育目標が「生きてはたらく知恵を育み、創造力にあふれる人づくり」とされ、見事に実践されていた。

この背景には秋田県の学力向上にむけ向けた、学力・学習状況結果の分析と学力向上のための方策としての「学校改善支援プラン」があるのも見逃すことはできない。

県の熱心な教育方針に基づいて各自治体の教育委員会は創意工夫をされ、中でも大仙市は三浦憲一教育長を先頭に子ども、保護者、学校、地域社会が「当たり前のことを当たり前にする」ことができるための環境づくりに、優れた取り組みが展開されている。

当市においても指導主事や学力向上支援員、学校司書の配置なども取り組まれているが、子ども、保護者、学校、地域社会が一体となった取り組みや環境づくりについては大きな開きがあると感じた。(大仙市では呼び名は違うが、学校生活支援員を市の予算で55名配置されていた。)また、当市を見ると、市内校区に温度差があり、地域との連携も十分ではないと思う。さらに教育委員会と学校現場をつなぐ大仙市教育研究所の存在は非常に大きなものがあり、先生方の教育意欲を引き出すと共に様々な課題解決にフォローがなされていることに驚いた。江津市においても指導主事を含めたこのような研究所組織を作り、対処する必要があると思う。

いずれにしても、時代を担う子供たちの「教育」について、大仙市の取り組みを大いに参考にすべきであると思った。

◆秋田県雄勝郡 東成瀬村 (平成26年10月21日)

人口 約2700人 世帯数31169世帯

市立小学校 1校 児童数 114人

市立中学校 1校 児童数 67人

●視察テーマ 小中学校における学力向上の取り組みについて

この村は「教育の村」として、全国各地や韓国から年間約900人が視察に訪れている。幼小連携、小中連携教育を取り入れ、まさに村ぐるみで教育が取り組まれている。

全国学力調査において秋田県が全国1番の中で、その県内で最もテストの成績が良かった自治体。人口も減少傾向にあり、過疎地域に指定され競争相手がたくさんいたり、美術館や進学塾などもなく、また通学の為の交通手段も悪い中、全国1の学力がどうして身につけているのか、江津の教育と違うところは何なのか、訪ねてみて実感することができた。

◇教育を進める心

教育委員会は先生たちにコーディネート力をつけさせることに力を注ぎ、子どもたちに

- ①自信と誇り (力をつける)
- ②安心感と信頼 (温かい人間関係)
- ③人のシャワー (人間の機微にふれる)

等々、10項目の指針を示され、先生に対する教育がまず取り組まれている。

そして学校教育、社会教育、スポーツ振興、芸術文化の振興、子育て支援、財政支援を主な施策として掲げ、それぞれに具体的な取り組みがされている。小中連携教育とあわせ、村ぐるみの生涯学習の推進がされ、子どもたちは本当に素直に人間らしく成長をしていることを感じた。また、村の一般会計予算約30億円の内10%にあたる約3億円を教育関係予算に充て、財政支援では学校給食費無料化、修学旅行費半額補助、通学バス無料、小1年入学祝い金などが支出されている。さらに保護者アンケートにおいて「近くに学習塾があれば利用したい」との回答に応え、村営の学習塾を開設（保護者負担は教材費の1300円程度で授業料は無料）されるなど、鶴飼教育長の手腕によるところも大きい。



◇学力向上

基本は「当たり前のことが当たり前でできる子どもの育成を図る」だが、そのための教員の質を高める村独自のカリキュラムがあり、小学校、中学校の教科の枠を超えて、教員が集い皆で授業の進め方を工夫されている。また複数の教員が子供たちを指導するチームティーチングには校長、教頭も入り、垣根がない。

そして授業では度々グループでの討議の時間がつくられ、とにかく自分の意見を言う時間がつくられることや、45分の授業時間の残り10分が、「ふりかえり」として、その授

業の内容について先生からの様々な質問に対して、自分の意見を述べる時間が設けられていた。この「ふりかえり」は授業で分からなかったことは「分からなかった」と言える時間でもあり、このことで先生も生徒はどこがわからないのかが分かり、次の授業につながる。また先生や友達の意見をしっかり聞いていないと答えられないことから、授業に集中できるなど、素晴らしい工夫がされていることがよく分かった。

また、学校内のいたるところに行事や発表会などの写真や各児童の作文や作品などが掲示されており、常に自分の存在が確認できる工夫もされていた。



【所見】

東成瀬村では8時30分に小学校に入り、午前中視察。午後からは近くの中学校を視察し、16時過ぎまで滞在した。この間、「鶴飼 孝」教育長の教育にかける熱い想いと子供たちに、どこに行っても恥ずかしくない力をつけてやりたいという、義務教育の使命のために本当に一生懸命取り組んでおられることがよく理解できた。

「決して特別なことをしているわけではない」と言われた言葉の裏には、教育への情熱があった。この成瀬小学校や中学校での授業の進め方については、是非江津市にも取り入れ、

義務教育の基本の実践を図れたらよいと思う。そのためにも教育長をはじめ教育委員、そして先生方の視察も促していきたい。

最後に、成瀬の学校に転勤となった先生は、同僚から「あそこは大変だよ」といわれて来られるそうだが、「転勤希望を出した先生は一人もいません。」との教育長の言葉が今も耳から離れない。

